

C7-987
福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
社會科學 門		
教育 部		
教 法	地	理
66.98	目	次
全	冊ノ内第	冊
分 番	類 號	第
	372.29	號

編
小
學
教
授
術
地
理
科

福岡縣師範學校

圖書部

教授法

番

號

32

冊ノ内



(K)

福岡縣
尋常師範
學校

新編
小學教範
地理科

目次

(一) 次 目

總論	一丁
教育上地理科ノ價值	三丁
觀察	五丁
概念及ビ想像	六丁
記憶	七丁
理性	九丁
地理科教授ノ順序	一〇丁
地圖	一三丁
模型地圖	一五丁
教授上注意スベキ諸件	一七丁
郷土地理教授ノ方法	一九丁
位置及ビ場所	二〇丁

(二)	目	次
二二丁	方位ノ觀念	
二六丁	距離ノ觀念	
二七丁	机卓ノ略圖	
二八丁	教室ノ形狀	
三〇丁	面積ノ觀念	
三一丁	距離配法ノ觀念	
三五丁	學校全圖	
三六丁	學校近傍ノ地圖及ヒ地理	
三八丁	自然地理ノ事實	
三九丁	(一) 丘陵及ヒ山岳	
四三丁	(二) 山脈及ヒ谿谷	
四四丁	(三) 谿流及ヒ川流	
四六丁	(四) 湖沼	
四七丁	(五) 海洋	

(三)	目	次
	郡ノ地圖及ヒ地理	四九丁
	一縣ノ地理	五〇丁
	日本國地理教授法概説	五二丁
	地理上事實ノ分類	五三丁
	右三種ノ事實ヲ混同スルノ利	五五丁
	日本國地理教授法	五七丁
	(一) 本邦ノ位置及ヒ形狀	五九丁
	(二) 區劃	六一丁
	(三) 地勢	六二丁
	(四) 氣候	六四丁
	(五) 都邑及ヒ名勝	六七丁
	(六) 生業及ヒ物産	七〇丁
	(七) 交通	七二丁
	(八) 内治上ノ事項	七三丁

(四) 目 次	
(九) 外交上ノ事項	七五丁
(十) 地球ノ形狀及ビ水陸ノ別 附經緯度線ノ事	七七丁
(十一) 地球ノ運動	八二丁
(十二) 晝夜四季ノ別	八三丁
(十三) 氣候	八四丁
(十四) 人種及ビ人類ノ狀態	八五丁
外國地理教授法	八六丁
亞細亞諸國	八七丁
歐羅巴諸國	九〇丁
亞弗利加國	九五丁
北亞米利加諸國	九七丁
南亞米利加國	九九丁
大洋洲	一〇〇丁
終 地理教授ノ用具	一〇一丁

新編 小學教授術 地理科

是石辰次郎著

總 論

(一) 地 理 科

凡現世界ニ於ケル最重要ナル問題ハ如何ト云ハ、人ヲシテ最高至善ノモノタラシムル方法ハ如何トノ問題ナルコト、蓋疑ヒナカルベシ、然ラバ此ノ唯一至重ノ問題ニ答フルニ、吾人ハ何ヲ以テスベキヤ、曰教育法是レナリ、何トナレバ教育トハ人ヲシテ完全至高ノ發達ヲ遂ゲシムルノ狀態ヲ云フモノナレバナリ、而シテ人類ノ訓育教練ニ於ケル高尚ナル理法、即人類固有ノ最高官能ニ關スル理法ヲ發見スルハ、教育哲學中主眼ノ問題ニシテ、個人ノ有スル此ノ最高官能ヲ啓發修練シテ、其ノ發達ヲ完遂セシムルノ方法ヲ講ズルハ、教育技術中主眼ノ事項ナリトス、然ルニ完全ナル教育ハ人ノ有スル最高至善ノ動念ノ發達ニ專力ヲ盡スニアリテ、此ノ基址ニ於テ教育シタル諸科學知識ノ絶對的及ビ關係上ノ價值ト、之レニ供シタル時間ト努力トノ比例ハ、其ノ知識ノ人ノ性質上ニ及ボス影響如何ニ依テ定マルモノナ

抑人類ノ動念ヲシテ至高ナラシメントセバ、生活上ノ知識ヲ明得セシメザルベカラズ、生活上ノ知識トハ、先ヅ人類ノ必須物ヲ知了シテ、之レヲ供給スルノ方便ヲ得ル知識ヲ云フモノナレバ、其ノ範圍廣ク萬般ノ知識ヲ包括スルモノナリ、蓋生物ノ基礎的材料ハ、無機即無生物ニアレバ、先ヅ無生物ニ關スル諸科學ノ知識ナカルベカラズ、地理學ハ、冷ク諸科學ヨリ其ノ材料ヲ採リ、人類生活上ニ最密接ノ關係ヲ有スルモノ、及ビ此ノ無量不可思議ノ宇宙ノ何タルヲ了解スベキモノヲ包含スルトコロノ、吾人ノ居所タル地球ノ形狀及ビ變化間斷無キ環象ノ影響ヲ論ズルモノナレバ、地理學上ノ事實ホド切要ニシテ、且吾人ノ性質上ニ影響シ、動念ヲ高尚ノ域ニ勸誘スルモノハ無カルベシ、夫人ノ此ノ世ニアルヤ、吾人ヲ刺衝スル外界ノ事物ハ、常ニ周圍ニ迫リテ、我が生活ニ恰好ナル情況ヲ呈ズルニ於テハ、我が生存ト快樂トヲ保續スルヲ得テ、自然ニ動念ノ發達ヲ促進シ得ベク、若其ノ情況ノ生活ニ恰當セザルニ於テハ、性質上ニ變化ヲ生シ、必其ノ影響ノ害ヲ蒙ルニ至ルベシ、此ク其ノ情況ハ吾人ノ生活上ニ至大至重ノ關係ヲ有スルモノナリト雖、亦地球上到ル處皆同

一ナルニアラズ、隨所大ニ其ノ狀勢ヲ異ニスルモノアリ、是レ如何ナル因由アリテ然ルヤヲ考察セバ、自ラ好探ノ情茲ニ動キテ禁ゼントスルモ能ハザルニ至ル、是ニ於テカ其ノ情ヲ満足セシメントセバ、隨所ノ地勢其ノ他ノ情態ヲ研究セザルベカラズ、是レ地理學ノ生活上ノ知識トシテ切要ナル所以ニシテ、其ノ價值ノ大ナル亦知ルベキナリ。

然リト雖此ノ學ノ幼童ニ與フルトコロノ價值ハ、生活上ノ知識ヲ得ルノ素地ト、教育上心力ノ發達ヲ促ストノ、二様ノ利益ニアルモノナレバ、教授ノ方法ニ錯誤アラハ、無味淡白ノ滓渣トナリテ、之レニ費シタル時間ト勞力トノ比例ヲ失フノミナラズ、將來此ノ學ノ價值ヲ損スルニ至ルベシ、故ニ教員ノ職ニアル者大ニ其ノ方法ヲ研究シ、教育技術ヲ練テ結果ノ善良ナランコトヲ企圖セザルベカラズ。

教育上地理科ノ價值

地理科ヲ普通教育ノ一科トシテ、其ノ弊ニ列スルニ於テ、得ルトコロノ利益ニアリ、其ノ一ハ實用上ニ於ケル利益ニシテ、其ノ二ハ教育上ニ於ケル價值ナリ、而シテ其

ノ實用上ニ於ケル利益ハ、世ノ疾クニ認ムルトコロナリト雖、教育上ニ於ケル價值ハ、未十分ニ世ニ認メラザルモノ、如シ、是レ蓋從來地理ノ教授法タル、管ニ都邑山岳河海等ノ名稱ト、其ノ定義様ノモノトヲ集録セル書冊ヲ生徒ノ手ニ持タシメ、徒ニ之レヲ誦讀暗記セシムルニ過ギザリシヲ以テ、生徒ノ心力育成上ニ於ケル、價値ヲ十分ニ發揚セザリシ罪ナリ。

凡教授法ナルモノハ、其ノ何科タルヲ問ハズ、生徒心力育成上ニ効アルノ方法ニ據ラザルベカラズ、故ニ先ヅ生徒ノ學ビ得ベキ近易ノモノヨリ始メテ、知識ノ基本ヲ收得セシメ、漸ク進ムニ隨ヒ、此ノ基本ニ由テ未知ノ知識ヲ收得セシムベシ、此ノ如クシテ一回生徒ノ心力ニ適應シタル知識ノ基本ヲ與ヘテ、之レヲ鞏固ナラシムルニ於テハ、後何レニ向テ之レヲ伸暢スルモ、又如何ナル段階ニ啓發スルモ、蓋意ノ儘ニシテ殆ンド坦途ヲ歩スルノ感アルベシ、故ニ地理科教授ノ憑據スベキ原理モ亦他ニ之レアルニ非ズ、先ヅ近易ニシテ生徒ノ熟知スルトコロノモノヲ中心トシテ、知識ノ基本ヲ作り、之レヨリ漸次ニ進テ遠隔セル新奇ノモノニ及ブベシ、此ノ原理ニ據テ以テ教授セバ、蓋前二様ノ利益ハ、十分之ヲ發揚スルニ難カラザルベシ。

(五) 地 理 科

觀察 地理科ノ事實タル全其ノ初メハ、觀察歸納シテ得タルモノナレバ、生徒ヲシテ地理上正確ナル觀念ヲ得セシメ、兼テ心力ノ修練ヲ遂ゲシメンニハ、必之レト同一ノ系路ヲ進行セシメザルベカラズ、故ニ先ヅ觀察ノ範圍ヲ生徒其ノ身ヲ圍繞セル一小世界ニ限リ、卑近ノ事物ニ就テ觀察セシメ、之レヲシテ正確ナル觀念トナシ、心裡ニ收納シテ、以テ知識ノ基本ヲ作り、且之レヲ鞏固ナラシメザルベカラズ、即諸物ノ位置、方位、尺度、面積等ノ觀念ヨリ、市街、村落、丘岡、水流、池沼等ニ至ル、通常生徒ノ眼ニ觸レ、足蹴ノ届ルトコロノモノニ就テ、正確ナル觀念ヲ得セシメ、之レヲ以テ眼未視ズ、足未踐マザル所ノ、事物景狀等ヲ知得スルノ基本トナスベシ、蓋近易ニシテ常ニ親ク目撃スルモノ、知識ハ、遠隔シテ未知ラザル事項ヲ想像シ、之レヲ理解スルノ基本トナルモノナレバナリ、例ヘバ水盤ノ水ハ以テ池沼ニ比スベク、猶之レヲ擴大ニシテハ、湖海ノ觀念ヲモ啓クベシ、又校側ノ小流ハ以テ之レヲ河川ニ擬シ、近傍ノ丘岡ハ以テ之レヲ山岳ニ比スベシ、一回此ノ如キ水盤、小流、丘岡等ノ觀念ヲ鞏固ナルニ於テハ、之レヲ基本トシテ、湖海、河沼、山岳等ノ知識ヲ得セシムルコト、敢テ難キニアラザルノミナラズ、又以テ比較想像ノ運轉ヲ爲サシムルノ便ヲ得ベシ。

概念及ビ想像

教授ノ目的ハ全ク言語名稱ノミヲ授クルニアラズシテ、寧

事實ノ觀念ヲ得セシムルニアルモノナレバ、地理科ニ於ケルモ、教師ノ心理ニ存在
スル事實ノ影像ヲ、言語ノ媒ニ依テ、直ニ生徒ノ心理ニ傳ヘ、明瞭ニ同一ノ影像ヲ彼
レニ生ゼシムルニアリ、故ニ教師ノ口授スル言語ハ、唯事實ノ影像ヲ傳フル媒介物
ナレバ、或ハ其ノ媒介物ノ盡サハルアリテ、生徒ノ心理ニ不完全、又ハ茫漠タル影像
ヲ生ゼシムルコトナシトセズ、是ヲ以テ教授ノ際、實物若クハ模形、或ハ繪畫及ビ地
圖等ヲ用テ、教師口授ノ事項ヲ十分了解セシムルノ補助トナシ、正當ナル概念ヲ
與ヘ、又ハ想像ヲ爲サシメザルベカラズ、然リト雖、初メヨリ教師悉口授説明セヨト
云フニアラズ、先ヅ生徒ト問答シテ、其ノ自經驗シ、自考定シタル事項ヲ答ヘシメ、而
シテ後此等ノ事項ヲ取纏メ、其ノ理解シ得ベキモノニ依リ、之レヲ補足連結シテ、以
テ一段ノ談話トナシ、口授スルノ場合ヲ云フナリ、前ニモ陳ベシガ如ク地理上ノ事
項ハ、固ク觀察經驗ニ基キ、之レヲ歸納シテ得ルモノナレバ、生徒ヲシテ地理科初歩ノ
事實ヲ正確ニ知得セシメンニハ、教師先ヅ生徒ト問答シテ、生徒ニ自己ノ知識ト經
験トナ言語正シク陳ベシメ、其ノ答詞中生徒實際ノ經驗ヨリ得タルモノニアラズ

シテ、單ニ聞キ傳ヘタルモノヲ含ムコト於テハ、此等ハ正確ノ知識トナルコト稀ナル
ヲ以テ之レヲ中止シ、勉メテ他ヨリ借リ來リテ答フルガ如キコトナキ様、注意セシ
メザルベカラズ、又教師ノ主眼トスル所ハ、唯生徒ヲシテ自觀察シ、自考定セシムル
ニ在ルヲ以テ、自己モ亦幼者ナリト思惟シテ、幼者ノ知量ノ外ニ出デ問ヲ起スガ如
キコトヲナスベカラズ、此ノ如クシテ稍、生徒ノ答辨ヲ満足ナリト認ムルトキハ、級
中各生徒ノ諸經驗ヨリ得タルモノヲ整理シ、唯其ノ不足ヲ補フテ、一條ノ連絡アル
モノトナスベシ、而シテ之レヲ補給スルモ亦高尙ナル事ヲ以テセズ、成ルベク生徒
自己ノ經驗ヨリ推知シ得ベキモノニ限ルベシ。

記憶

地理上ノ事項ハ、概テ記憶ニ委スベキモノ、其ノ多分ヲ占ムルヲ以テ、生徒

ニ教授スルニハ、妄ニ詳細ニ涉リテ生徒ノ心ニ錯雜ヲ生ゼシムベカラズ、又河海、都
邑等ノ名稱ノ如キモ、必之レヲ單獨ニ記憶セシムルコトヲ避クベシ、殊ニ猶進デ生
徒ノ觀察經驗以外ノ事實ヲ教授スルニハ、最簡單明瞭ニ講説シ、且生徒ノ平素熟知
セルモノト聯合シテ、其ノ記憶ヲ鞏固ナラシメザルベカラズ、記憶ヲ鞏固ニスルハ、
聯合ノ律ニ據ルベキハ、動スベカラザル原則ニシテ、此ノ律ヲ地理教授ニ應用スル

ハ、最緊要ナルコト、ス、聯合ノ律ニハ、接近、類似ノ二アリ、接近律トハ、同時ニ經驗シタル事物、又ハ連續繼起ノ事物、相互ニ接近シテ離レザルモノ、猶小分スレバ場所ノ聯合、時間ノ聯合、又ハ因果、反對ノ聯合是レナリ、類似律トハ、雜糅紛亂セル事物ノ中、自相互ニ類同シ若クハ一致スルノ點アリ、其ノ類同點ニ由テ聯合スルヲ云フ、蓋地名ハ概テ其ノ地ノ歴史ト聯合セシムルニ於テハ永ク記憶ヲ脱セズ、殊ニ愛郷心ノ如キハ、之レニ依テ深厚ナルモノニシテ、夫ノ慷慨悲憤、死ヲ以テ其ノ地ニ殉セントスル心ノ如キ、多クハ其ノ地ト歴史トノ聯合ニ由テ生ズルモノナリ、又因果ノ聯合トハ、結果ヲ見テ其ノ因ヲ討テ、原因ヲ知リテ其ノ果ヲ測ルノ謂ヒニシテ、幼者ノ心裡ニハ、何故ニ斯クアルヤ、此ノ如クスレバ如何ニ成ルベキヤナ問ハントスルノ傾向アルヲ以テ、甚シク錯綜セルモノヲ除クノ外ハ、大抵因果ヲ解釋シテ、其ノ關係ヲ知ラシメ、之レヲ聯合セシムルコト、敢テ難事ニアラザルベシ、例ヘバ日本海ニ瀕スル國ハ、約雪深クシテ、互寒甚シキハ、大抵北極ニ近キ大陸ヨリ、日本海ヲ經テ來ル寒風ニ因ルト云フガ如ク、或ハ雨雪ノ多少ヲ以テ其ノ地ノ氣候ヲ推シ、或ハ產物ノ多寡ヲ以テ其ノ地味ノ豐瘠ヲトスベシ、反對ノ聯合トハ、互寒ノ瀕列ナルニ際シテ、燦金

ノ炎熱ヲ想起シ、波濤萬里ノ大海ヲ以テ、萬物繁茂セル陸地ヲ提起シ、山岳ノ巍峨タルヲ見テ、深谷ノ蔭鬱タルヲ想起セシムルガ如シ、凡テ草叢中ノ花卉ハ、殊ニ鮮麗ニ感ズルモ、爛燦タル百花ノ中ニ、會一美花ノ混ズルアリトモ、却テ人ノ感賞ヲ率ク無キガ如シ、故ニ反對ノ事實ハ、互ニ光輝ヲ反射シテ、自他ヲ明瞭ナラシムルモノト云フベシ、類似ノ聯合ハ、地理教授ニ應用シテ頗効アルモノニシテ、例ヘバ地形ヲ類似ノ動物体形ニ擬シ、或ハ島嶼、大陸ヲ互ニ比較シテ、其ノ類似ノ點ヲ説キ示サバ、大ニ記憶ヲ鞏固ナラシムルノ益アリ、其ノ他猶或ハ時ニ地圖ヲ示シテ之レヲ描寫セシメ、又ハ全ク自個ノ記憶上ヨリ地圖ヲ描カシムルガ如キハ、記憶ヲ鞏固ニスルノ一助トナルモノナリ、然リト雖之レニ多分ノ時間ヲ費サシムルハ不可ナリトス。

理性 是レヨリ猶進テ較高尙ナル程度ニ達スレバ、生徒ノ理性ニ訴ヘテ之レヲ修練スベシ、乃事實ヲ分類シ、概括シテ、遂ニ其ノ理法ヲ發見シ、因果ノ理ヲ悟ラシムベシ、故ニ教授ハ歸納ノ順序ヲ追ヒ、必既定ノ理法ヨリ入りテ、之レヲ暗記セシムルガ如キコトヲナサズ、又決シテ急速ヲ望マズ、事ノ多キヲ期スベカラズ、蓋幼者ニアリテハ、許多ノ事實ヲ悉正、正確ニ把握シ、其ノ關係ヲ一々發見シテ、推理スルハ容易

ノ業ニアラザレバナリ、然レドモ實際ノ經驗ヨリ漸進テ茲ニ至ラシムルノ方針ハ、地理科教授ニ最必要ナル順序ニシテ、此ノ方針ニ由リ、始メテ實用上ニ於ケル地理科ノ知識ヲ得、兼テ教育上ニ價值アル生徒心力ノ育成ヲ遂ゲ得ルモノナリ。

地理科教授ノ順序

地理ヲ授クルニ二法アリ、其ノ一ヲ總合法ト云ヒ、其ノ二ヲ分解法ト云フ、總合法トハ部分ヨリ全体ニ、特殊ヨリ一般ニ進ムノ順序ニシテ、分解法トハ前ニ反シ、全体ヨリ始メテ部分ニ及ボシ、一般ヨリ説テ特殊ニ進ムノ順序ヲ云フナリ、古來大抵地球ノ形狀ヨリ水陸及ビ五帶ノ區別等、地球一般ノコトヨリ漸進部分ニ進ムノ順序ヲ採リシガ、今ハ此ノ如キ教育上不合理ノ順序ニ依ルモノ無キニ至レリ、現時佛國ハ大ニ地理教授ノ進歩ヲ呈シタリト、而シテ今佛國ノ學校ニ於テ、主トシテ用ヰル所ノ地誌ヲ見ルニ、初メハ府縣地誌ナリト雖、然レドモ其ノ開卷ノ初メニハ、世界ノ形狀、大小、磁石ノ諸點、地球上ニ於テ佛國ノ位置ニ關スル總論ヲ載セザルモノナク、次ニ其ノ州ノ地圖ト、其ノ名稱、大小、境界、面積、主要ナル工業、地質、天產物、其ノ地出身ノ有名

ナル人物及ビ歴史上ノ古事行政上、統計上、并ニ商業上ノ事實ヲ載セ、其ノ他州内著名ナル社寺、官廳、墓碑、勝地等ノ繪畫ヲ挿メリ、一般ニ佛國ノ小兒ハ、此ノ如キ書ニ就テ、先ヅ其ノ居住スル國ノ部分ヲ研究シ、而シテ後更ニ遠隔セル地方ノ地理ニ及ブテ、順序トセリ、當時萬國皆此ノ順序ニ據ラザルハ、殆ンド無キガ如シ、本邦ニ於ケルモ小學校教則大綱ノ示ス所ヲ以テ、生徒居住府縣ノ地理ヲ始メトシ、自國ヲ中心トシテ漸次遠キニ進ムノ順序タルコト明カナリトス、是レ則地理教授ノ合理的順序ト云フベシ、然リト雖地理科教授ヲ始ムルニハ、先ヅ其ノ豫備トシテ地理上事實ノ觀念ヲ啓キ、生徒ヲシテ此ノ科ニ於ケル興味ヲ感ゼシムルコト尤緊要ナリトス、而シテ前ニモ陳ベシ如ク、地理上事實ノ觀念ヲ啓クベキ材料ハ、悉生徒ノ周圍ニ散在セルヲ以テ、此等ニ由テ觀念ヲ啓キ、此ノ科ニ入ルノ階梯トナスベシ、即生徒ノ實驗、實測ニ根據シ、物体ノ位置ヨリ方位、距離ノ觀念ヲ啓キ、丘岡、原野、河湖、沼澤、山岳、谿谷等ノ用語ノ解釋ヲ與ヘ、村落、都邑ノ人民生業上ノ習俗ヲ知ラシムベシ、抑如何ナル學科ト雖、幼者ニ教フルニ初メヨリ學科的ノ系統ヲ備ヘタルモノヲ以テスルハ、頗ル困難ナルノミナラズ、教育ノ理論ニモ適セザルモノナリ、故ニ初メハ先ヅ近易ノ

モノヨリ入り、將來學科的系統ヲ踐テ學習スル知識ノ基礎ヲ與ヘザルベカラズ、然ルニ幼者身邊ノ圍繞物ハ、萬般ノ事物ヲ觀想スベキ中心ニシテ、將來ノ經驗ヲ積ムベキ基本ナルヲ以テ、此等事物ノ實驗、實測ニ根據シ、地理上事實ノ觀念ヲ與ヘ、以テ教室ヨリ學校所在ノ地理、町村郡縣ト漸次其ノ範圍ヲ廣メ、遂ニ全國地理ニ至ルハ蓋至當ナル教授ノ順序ト云フベシ。

然リト雖其ノ細目ニ就キ多少順序ヲ變更スルハ、教師ノ意中ニ存スルモノニシテ、讀書、習字ノ如キ學科トハ又自異ナル所アリ、乃地理科ニ於テハ、教師自ラ事情ヲ判斷シ、事實ノ輕重ヲ量リ、便宜其ノ順序ヲ定ムルハ理ノ當ニ然ルベキ所ニシテ、唯其ノ大体ノ順序ヲ變更スルハ大ニ考慮ヲ要スルモノナリ、例ヘバ往昔ハ東北地方ノ事實ハ格別詳密ヲ要セズシテ、西南地方ノ事實ヲ緊要トナセシモ、今日ニ至テハ却テ其ノ反對ノ事情アルガ如シ、其ノ他猶小事實ニ至テハ順序ヲ前後シ、又ハ增補省略セザルベカラザルコト、年ヲ追テ増加スベケレバナリ、果シテ然ラバ單ニ教科書ノ示ス所ノミヲ以テ教授セバ、宛モ教師ハ教科書ノ奴隸ニシテ、器械的ニ唯其ノ取次ヲ爲スニ過ギザルベシ、此ノ如クナレバ生徒得ル所ノ利益極メテ僅少ナラン。

地圖 秩序ノ整ヒタル地理教授ナサシニハ、先ヅ地圖ノ性質、及び目的ヲ知了セシムルコトヲ勉メザルベカラズ、然ルニ從來地圖ヲ使用スルノ法ヲ視ルニ、其ノ性質及び目的ニ就テハ、一ノ説明ヲ與フルコト無ク、單ニ地圖ヲ示シテ直ニ地理上ノ事項ヲ教ヘントスルモノ、如シ、是レ決シテ地圖ヲ用井ルノ効用無キノミナラズ、却テ生徒ニ迷惑ヲ感ゼシムルヲ免レザルナリ、何トナレハ生徒ハ未地圖トハ如何ナル用ヲナスモノニシテ、何ヲ代表シタルモノナルヤヲ知ラズ、甚シキニ至テハ唯數個ノ曲直線ヲ以テ奇異ナルモノヲ畫キ、彩色ヲ施シタル繪畫ナリト思惟スル者モアラン、又多少其ノ性質ヲ知ルニ於テモ、圖中ノ諸符號ハ如何ナル意義ヲ有スルヤ等ニ就テ、十分ノ觀念無キニ於テハ、其ノ教授ハ全ク實地ヲ離レテ、所謂地圖上ノ學問トナリ、結局何ノ効用モ無キニ至ルベシ、故ニ先ヅ地圖ノ性質、及び其ノ目的ヲ十分知了セシムルコト緊要ナリトス、殊ニ地圖ノ配法ニ就テハ最意ヲ用ウベシ、全國ノ地圖ヲ用井ルニ至テハ、必其ノ前ニ用井タル學校近傍町村圖、又ハ縣地圖ト其ノ配法大ニ異ナルコトヲ知ラシメ、以テ圖中表明スル所ノ面積ト實際トノ關

係ナ、比較上ヨリ推考セシメザルベカラズ、即從來示シタル町村圖ニ於テハ、僅ニ一
 里ニ滿タザル面積モ數平方尺ノ全圖ヲ充塞シ、縣地圖ニ至テハ、既其ノ同一面積モ
 一寸以下ニ減縮シ、全國地圖ニ於テハ、最大配法ニ依ルモノト雖、既其ノ同一面積ハ
 一點ノ容易ニ見ルベカラザルモノニ縮少セルコトヲ、充分會得セシメザルベカラ
 ズ、故ニ配法ノ異ナリタル地圖ニ移ル毎ニ、黑板上ニ於テ前ニ用ヰタル地圖ト同一
 面積ヲ比較シ、以テ相互ノ尺度ヲ示シ、配法ノ増スニ從テ面積ノ縮少スルコトヲ了
 解セシムベシ。

抑地理ハ親ク實地ヲ旅行シテ之レヲ學ブニ若カズト雖、是レ容易ノ業ニアラズ、否
 能ハザルベシ、然レドモ地圖ノ用法、及ビ其ノ性質ヲ明瞭ニ會得スルニ於テハ、圖上
 ノ想像旅行ヲナスヲ得テ、何レノ地ト雖、旅行シ能ハザルコト無ク、且大ニ興味アル
 モノナリ、然レドモ唯其ノ想像ノ基本精確ナラザレバ、架空ニ陥リ易シ、架空ノ想像
 ハ地理ノ知識ヲ懷亂スルモノナレバ、基本ヲ精確ナラシムルコト最肝要ナリトス、
 故ニ生徒ノ心理ニ精確ナル基本ノ立テタル後ニ於テ、教師自、先導者トナリ、生徒ヲ
 シテ想像旅行ニ出立セシムベシ。

模型地圖

前ニ述ベシ如ク、地理上ノ事項ハ、實地ニ就テ授クルニ如カズト
 雖、悉實地ニ就テ授クルヲ得ザルヲ以テ、勢、適當ノ概想物ヲ用ヰテ教授セザルベカ
 ラズ、是レ地圖ノ必要ナル所以ナリ、然ルニ地圖ハ地球表面ノ一部ノ有様ヲ平面ニ
 寫セシモノニ過ギザレバ、之レニ依テ直接ニ山岳地勢ノ高低、川流ノ緩急如何ヲ會
 得セシムルコト頗難キノミナラズ、猶名狀的説明ヲ與フルモ、未以テ明確ナル觀念
 ナ啓クコト甚難シ、故ニ別ニ模型地圖ヲ用ヰテ之レヲ觀察セシメナバ、大ニ其ノ概
 想ヲ精確ナラシムルノ益アルベシ、蓋模型地圖ハ幾分カ時間ヲ費スコト大ナルベ
 シト雖、所謂百聞一見ニ若カズノ諺ノ如ク、實際生徒ノ觀念ヲ確實ニシテ、後ニ教ウ
 ル事件ニハ、多クノ時間ヲ要セズシテ、正確ノ想像ヲナサシムルノ基本トナルガ故
 ニ、其ノ益却テ多シトス、故ニ歐米各國ノ小學校ニ於テ地理教授ノ初步ニハ、大抵模
 型地圖ヲ用ウト云フ、近時米國出版ノふらんしす、だふる、う、ばあ、か、わ、氏著述ノ斬
 新ナル地理教授法ノ如キモ、主トシテ模型地圖ノ教授ニ由レリ、其ノ教授法タルヤ
 生徒ノ机卓ノ位置ヲ變シテ三方ヨリ環視スルノ排置トナシ、他ノ一方ヲ開キ、其ノ
 中央ニ不用ノ黑板、若クハ長、凡三四尺幅三尺許ノ淺キ箱様ノモノヲ平面ニ臺上

ニ置キ、教師其ノ一方ニ在テ先、板上ニ海岸線ヲ描キ、濕潤セル小砂ヲ以テ山脈ヲ作リ、猶小砂ヲ撒布シテ山脈ヨリ海岸ニ至ル傾斜ノ有様ヲ示シ、適當ナル顔料ヲ以テ川流、湖海、國境等ノ形狀、位置ヲ畫キ、傍テ生徒ニ問答シツ、其ノ要點ヲ表示スレバ、生徒ノ位置ハ其ノ地圖ヨリ少シク高キニ在ルヲ以テ、恰高山ニ登テ眼下ニ平地ヲ見ルガ如ク、容易ニ地理上眞形ノ觀念ヲ與フルヲ得ベシ、又之レニ代フルニ起伏地地圖ヲ以テスレバ頗可ナルノミナラズ、前法ニ比スレバ猶便利ナラン、此ノ如ク模型地圖、又ハ起伏地圖ニ就テ、生徒ニ問答シ、後之レヲ取纏メテ口授シ、生徒ヲシテ筆記セシムルカ、若クハ適當ノ教科書ニ就テ之レヲ讀マシメ、以テ心中ニ眞形ノ圖ヲ描カシメ、猶反覆シテ其ノ印象ヲ鞏固ナラシムルニ於テハ、永ク眞形ノ觀念ヲ保持スルヲ得ベシ。

左ニ掲クル圖ハ、著者ガ厚紙ヲ以テ起伏地圖ヲ製シ試ミタルモノニシテ、其ノ製法タル先ヅ洋紙留字用若クハ堅牢ナル和紙面ニ縱橫線ヲ引キテ、面積ノ割合ヲ示シ、其ノ上ニ製セントスル土地ノ略圖ヲ描キ、山岳、高地、及ビ平野ハ其ノ形狀ニ切りタル厚紙ヲ高サノ割合ニ從ヒ、重ヲ粘附シ、以テ湖海、川流ノ凹陷、傾斜、山岳、高地ノ

形狀、高低ヲ示シ、村落、都邑、道路、田園等ハ符號ヲ以テ表ハセシモノナリ、但高山ハ其ノ最下紙ヨリ漸次重スルニ其ノ形狀ノ狭小ナルモノヲ以テスベシ。

教授上注意スベキ諸件

教授上注意スベキ事件ハ多クアリ、雖、一々之レヲ枚擧スルニ違アラザルヲ以テ、細小ノ事件ハ之レヲ略シ、殊ニ必要ナル事件ノミヲ左ニ記スベシ。

- (一) 生徒ニ教科書ヲ持タシムルモ、決シテ初メヨリ之レニ依頼スルノ慣習ヲ生ゼシメズ、單ニ練習用ト備忘ノ用トニ供セシメンコトヲ要ス。
- (二) 地理ヲ授クルニハ、近キヲ密ニシテ遠キヲ粗ニシ、凡テ親ク生徒ノ觀察ヲ得タルモノニ比較シテ遠キヲ想像セシムベシ。
- (三) 地理教授ハ決シテ教室内ノ教科ナリト思惟スベカラズ、寧ろ教室外ノ教科ニシテ、唯之レヲ整理スルノ際ニ、教室内ノ教科トナスベキコトヲ忘ルベカラズ。
- (四) 地理教授ハ言辭上ノ暗記ニ流レ易キモノナレバ、教師ハ常ニ注意シテ、果シテ生徒ノ心理ニ描出シタル地理圖アリテ、之レヨリ出タル言辭ナルヤ、將タ

(五) 單ニ言辭ノミノ記憶ヨリ出タルヤヲ、考察セザルベカラズ。生徒ニ示ス地圖ハ初メヨリ精密ナルモノヲ用フベカラズ、唯其ノ誤謬ナキト區別ノ分明ナルトヲ以テ第一トス、凡テ初學者ノ教授用ニ供スルモノハ名目ノ煩雜ヲ避クベシ、否ラザレバ之レガ爲、却テ生徒ハ大体ノ地形ヲ認識シ能ハザルモノナリ。

(六) 地圖ハ教授ノ基本ナリト雖、若地圖ノミニ拘泥シテ、實地ト云フ念ヲ離ルレバ、其ノ結果ハ地圖無キニ若カザルナリ、乃生徒ニ北ハ何レナルヤト問ヘバ、天井ヲ指スト云フガ如キハ、實地ヲ離レテ地圖ニ拘泥シタル結果ナリ。

(七) 一地方ノ地理ヲ教フルニ際シ、其ノ地ニ密接ノ關係アル事項ハ、純粹ナル地理ノ事項ナラザルモ、詳細ニ涉ラズシテ關係上之レヲ併セ説キ、其ノ地形等ヲ聯合ノ記憶ニ訴ヘシムベシ、然レドモ主客ノ分ヲ忘レ、深ク支葉ニ馳セザル様注意スベシ。

(八) 地圖上ニ表明セザル物産、人情、風俗、氣候、生業等ハ、觀念聯合ノ法ニ基キ、問答ヲ以テ授クベシ、決シテ無關係ニ説クベカラズ。

(九) 都邑ヲ授クルニハ地勢ノ情況ヨリ入り、道路交通ノ便否、商業、工業ノ狀況、風俗、慣習、及ビ諸種ノ建築物等ニ至リ、最著名ナルモノ、ミテ舉グベシ。著名ナル都邑、山川、原野、其ノ他各地ノ寫眞、又ハ石版摺ノ繪畫ヲ蒐集シ、其ノ地景ヲ想像セシムルノ場合ニハ、先ヅ之レヲ觀察セシメ、以テ其ノ想像ノ補助トナスベシ、然レドモ通常ノ寫眞ハ小ナルヲ以テ、多數ノ生徒ニ之レヲ示スモ、其ノ眞景ヲ會得スル能ハザル場合ニ於テハ、適當ノ法ヲ用井テ之レヲ放大シテ示スベシ。

(十) 地理ノ教授ハ單ニ各國各地ノ地形、生業、物産、交通等ヲ知了セシムルノミヲ以テ目的トセズ、愛國ノ念ヲ養フコトニ終始注意スベシ。教師ノ説明ヲ要スルトキハ、豫其ノ説明スベキ事項ヲ準備シ置キ、決シテ突然ニ出テズ、又其ノ説明ハ繁雜冗長ナラズ、或ハ簡ニ失シテ意ヲ盡サハルコト無キヲ要ス。

郷土地理教授ノ方法

小學校ニ於テ地理ヲ教授スルニハ、現行ノ規定ニ從ヒ、上下、高低、左右、前後、遠近ヨリ教室ノ四壁、四隅、出入口、及ビ窓ノ位置、方位、距離、机卓ノ略圖、教室ノ形狀、面積等ニ移リ、學校全休ノ地理、地圖ノ解釋ヨリ、郷土地理、府縣地理、日本國地理ニ進ミ、次ニ地球ノ運動、晝夜、四季ノ原由、及ビ外國地理ニ終ルベキモノトス。

位置及ビ場所

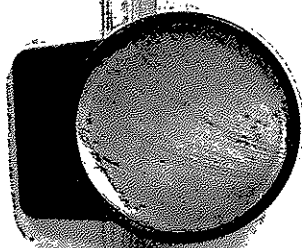
生徒ノ實驗、實測ニ根據シ、客觀的ニ上下、高低等ノ名辭ヲ教ウベシ、此ノ時教師先ヅ黑板上ニ環形二個ヲ縱列ニ描キ、生徒ヲシテ其ノ上、又ハ下ニアル環形ハ何レナルヤヲ答ヘシメ、猶生徒ノ身体ニ就テ頭足ノ位置ヲ問答シ、又天井ト床板トノ位置ヲ問ヒ、以テ上下、高低ノ觀念ヲ啓キ、且其ノ名辭ヲ教ウ、又教師机上ニ三個ノ石、又ハ他ノ物体ヲ一列ニ排ベテ各生ニ示シ、後甲生ヲ呼ビ出シ、其ノ三個ノ石ヲ取テ再之レテ前ノ如ク排列セシメ、乙生ニ指命シテ其ノ中間ノ石ヲ取テ左ニ置カシメ、各生ニ對シテ果シテ乙生ノ爲セシハ正シキヤ否ヲ問答シ、又丙生ヲシテ其ノ中間ノ石ヲ右ニ置カシメ、前ノ如ク其ノ正否ヲ各生ニ問答シ、若其ノ排列ノ位置誤ルコトアリテ、之レヲ發見スル生徒アラバ代テ其ノ排列ヲ正サシムベシ、此ノ如クシテ物体相互ノ位置ニ就キ左右ノ觀念ヲ啓キ、猶生徒ノ左右ノ手、及ビ

左右ニアル生徒ノ位置ヲ利用シテ之レヲ練習シ、後ニ左右ノ名辭ヲ教ウ前後ノ觀念ヲ與フルモ亦同法ニ依ルベシ、乃一列、中左右ノ物体ヲ取テ前後ニ排列セシメ、或ハ物体ノ數ヲ加ヘテ前後ニ排列ノ數ヲ増サシムル等、交番各生ニ其ノ位置ヲ變改セシメ、然後全記憶上ヨリ前ノ排列變更ヲナシメ以テ之レヲ練習スベシ。

次ニ生徒ニ各自立ツ所ノ教室ノ位置ヲ問答シ、仰テハ天井ヲ見伏テハ床板ヲ見ルヲ以テ、自個ハ其ノ中間ニ在ルコトヲ知フシメ、上下ノ觀念ヲ喚起シ、右ニ歩シテ壁ニ接シ左ニ歩シテ窓壁アリ、前ニ進ミ、後ニ退クモ亦皆壁アリ、四邊壁ヲ以テ圍ミ、己レ其ノ中間ニ在ルノ觀念ヲ得セシメ、以テ四壁、四隅ノ名辭ヲ教エ、兼テ左右、前後ノ名辭ヲ練習スベシ。

方位ノ觀念

東西ノ觀念ハ、生徒日々實驗スルトコロノ、太陽ノ視動ニ關スル事實ニ就テ之レヲ啓クベシ、乃日出ト日没トニ依テ東西ノ觀念ヲ與フ、例ヘハ太陽ノ出ルハ何レノ方ナルヤ、又太陽ノ没スルハ何レノ方ナルヤ等ヲ問答シ、其ノ答ヲ得テ教師之ヲ整理シ、太陽ノ出ル方ヲ東ト云ヒ、其ノ没スル方ヲ西ト云フコトヲ教エ、猶種々ノ問ヲ設ケテ其ノ觀念ヲ鞏固ニシ、次ニ東西ノ文字ヲ教ウ、左ニ其ノ教



授ノ方法ヲ掲グベシ。

題目 東西方位

教授方法

(一) 前課ノ復習ヲナス
觀念ヲ啓發ス

汝等ハ太陽ノ出ルヲ見シコトアリヤ。

太陽ハ何レノ處ヨリ出ルヤ。(舉手)

一生ニ指命シテ之ヲ答ヘシノ、猶二三生ニ試ミ、後級決教可ヲ行フ。

汝等ハ日暮ニ太陽ノ没スルヲ見シコトアリヤ。

太陽ハ何レノ方ニ没スルヤ。(舉手)

生徒ヲシテ答ヘシムルコト前ニ同シ。

太陽ノ出ル方ヲ何ト云フヤ。(級決教可(知ラザレバ教ウ))

太陽ノ没スル方ハ如何。(前ニ同シ)

後教師問答ヲ整理シテ太陽ノ出ル方ヲ東ト云ヒ、其ノ没スル方ヲ西ト云フ

コトヲ説明ス。

(三) 文字ヲ教ウ

東ナル文字ヲ知ル者アリヤ。(舉手)

一生ヲ呼出シテ黑板上ニ書セシメ、衆生ニ其ノ正否ヲ質ス。

(知ラザレバ教ウ)

西ナル文字ヲ知レル者アリヤ。(舉手)

生徒ニ書セシムルコト前ニ同シ。

東西文字ノ練習。

(四) 練習

教師自ラ東方ニ向テ歩シ、余ハ何レノ方ニ向テ歩セシヤ、又西方ニ向テ歩シ、

余ハ何レニ向テ歩セシヤヲ問答シ、一生ヲ呼ビ出シ、東又ハ西ニ向テ歩セ

シム。

汝等東ニ向テ何時太陽ヲ見ルヤ。

教室ノ何レノ方ハ東ナルヤ。

西ハ如何。

朝日ノ輝ク方ハ何レナルヤ。

夕陽ノ照ス方ハ如何。

結論

教師曰、今汝等ハ如何ナルコトヲ學ビシヤ。

生徒曰、東ト西ナリ。

教師曰、然ラバ東トハ如何ナル方ヲ云ヒ、西トハ如何ナル方ヲ云フヤ。

生徒曰、大陽ノ出ル方ニシテ、朝日ノ輝ク方ヲ東ト云ヒ、大陽ノ入ル方ニシ

テ、夕陽ノ照ス方ヲ西ト云フナリ。

次ニ南北ノ方位ヲ教フルニハ、生徒ヲシテ右手ヲ東方ニ、左手ヲ西方ニ指サシ、汝ノ前面ニ當ル方ハ北ニシテ、背面ニ對スル方ハ南ナルコトヲ知ラシム、今汝ガ東ニ向フトキハ、汝ノ左手ハ何レヲ指シ、又右手ハ何レヲ指スヤヲ問答シ、後南北ナル文字ヲ教エ、猶左ノ問答ニ依テ之レヲ練習スベシ。

汝等ハ何レガ東、何レガ西ナルコトヲ發見スルニハ、何ヲ目標トスルヤ。

汝等ハ東西ノ方位ヲ知ラバ、如何ニシテ南北ノ方位ヲ知ルコトヲ得ルヤ。
南方ニ至ランニハ、何レニ向テ歩スベキヤ。
北方ニ至ランニハ、如何。

此ノ如クシテ、東西南北ノ方位ヲ知ラバ、猶遊戯場ニ在リテモ、地上ニ東西南北ノ線ヲ引カシメ、又ハ竹木ヲ直交セシメテ、其ノ方位ヲ定ムル等、練習ヲ爲スベシ。
次ニ東南、東北、西南、西北ノ間位ノ概念ヲ與ヘンニシテ、左ノ如キ問答ニ依ルベシ。

(教) 汝等若干ノ距離ニ在ル物ノ方位ヲ記サントセバ、如何ニスルヤ。

(生) 東又ハ西、或ハ南、又ハ北ト云ヒマス。

(教) 然リ、然ラバ汝等ハ如何ニシテ、其ノ東、或ハ西、或ハ南、或ハ北ヲ定ム得ルヤ。

(生) 大陽ノ出沒ニ就テ知リマス。

(教) 物ハ必需ニ正東、正西、正南、正北ノミニアルヤ。

(生) 或ハ其ノ二ツノ中間ニ在ルコトモアルマス。

(教) 然リ、其ノ場合ニハ中間ノ方位ヲ何ト云フヤ。(知ラズ)

(教) 今其方位ヲ教ウベシ、東ト北トノ間ヲ東北ト云フナリ。

(教) 理解セシヤ、然ラバ東ト南トノ間、何ト云フヤ。
(教) 西ト南トノ中間及ビ西ト北トノ中間ハ如何。

此ノ如キ順序ヲ以テ問答シ、其ノ觀念ヲ得タル後ハ之レヲ實際ニ應用シ、教室内ニ在テハ、教師ノ座席、教室ノ出入口、窓戶等ノ位置、方位ニ就キ、教室外ニ在テハ、校内ノ樹木、建物ノ位置、各自住家ノ所在等ニ就テ、其ノ方向ヲ問答シ、以テ其ノ觀念ヲ鞏固ナラシムベシ、次ニ風ノ如何ナル方向ヨリ如何ナル方向ニ吹グト云フコトノ區別ヲ教エ、最後ニ殆^〇南^〇西^〇、又ハ殆^〇南^〇東^〇等ノ如キ、殆^〇トナル辭ヲ用フルコトヲモ教ウベシ。

距離ノ觀念 二個ノ長短殆^〇ト相等シキ細キ棒ヲ生徒ニ示シテ、其ノ何レガ長キヤヲ測量セシメ、又黑板上ニ一直線ヲ描キ、生徒ニ指命シテ、之レヲ二等分、又ハ四等分、或ハ五等分セシメ、次ニ教師自^レ之^レヲ測量シテ、其ノ等分ヲ確メ、又生徒ニ尺度ヲ與ヘ、等分線ト比較シテ、尺度ノ觀念ヲ與フ、然後器物ニ就テ長、廣、幅、厚、深、高等ノ名辭ヲ教エ、生徒ヲシテ自^レ書籍、石板、机卓、窓戶等ノ長、廣、幅、高等モ推量セシメ、尺度ヲ以テ之レヲ確メシム。

次ニ間竿ヲ示シ、其ノ長サヲ黑板上ニ寫シテ、生徒ニ問答シ、其ノ内ニ一尺ノ長サヲ幾何合ムヤヲ推量セシメ、後尺度ヲ以テ之レヲ確メシム、又間繩ヲ示シ、其ノ一、間ノ長サト間竿トヲ比較シ、相同シキコトヲ示シ、間ヲ以テ量ル距離ハ、總テ此ノ二ツノモ^レヲ用弗ルコトヲ教ウ、然後教室ノ廣、校内樹木ノ距離、道路等ヲ實地ニ測ラシメ、最後ニ生徒ノ熟知セル學校ヨリノ距離ヲ擇ン、町ノ觀念ヲ與ヘ、又生徒各自ノ家ト、學校トノ距離ニ就テ之レヲ練習シ、此ノ如クシテ終ニ里ト云フコトヲ教ウ。

机卓ノ略圖

生徒ヲシテ先ツ教室内ニ於ケル方位ヲ云ハシメ、其ノ北ニ常ル壁間ニ大ナル白紙ヲ粘附シ、黑板ノ位置ニ於テハ直ニ黑板ヲ用ウベシ、其ノ前ニ机ノ四邊ヲ東西南北ノ方位ニ準シテ置キ、教師机面ノ各邊ヲ指シテ、一々其ノ方位ヲ生徒ニ問答シツ、横線ヲ紙上ニ引キテ、南北ノ二邊ヲ寫シ、又、縦線ヲ以テ横線ノ兩端ニ接シテ、直角ニ東西ノ二邊ヲ描キ、各線ニ東西南北ノ文字ヲ附シテ、方位ヲ示シ、此ノ直角四角形^長方^形ノ圖ヲ指シテ、何ノ圖ナルヤヲ生徒ニ問答シテ、机面ノ圖ナルコトヲ知ラシメ、又机上ニ置キタル硯箱、石板、書物等ノ位置ヲ計リテ、其ノ位置ヲ圖ニ記ルシ、再生徒ニ問フテ、一々其ノ何ノ位置タルコトヲ答ヘシメ、其ノ頭字^{假名ノ頭字例ハ}マ、硯箱ナレバヌ

添フ字ヲ添ヘ、然後其ノ紙ヲ黑板上ニ移シ、粘附シテ之レヲ示シ、凡テ圖ナルモノハ何處ニ吊スルモ、常ニ上ハ北ニシテ、右ハ東ナリトナテ教ウ斯クシテ生徒ノ十分了解スルニ於テハ、各生ニ命ジテ石板上ニ之レヲ練習セシムベシ。

教室ノ形狀

生徒既黑板上ニ於ケル方位ヲ知了セルニ依リ、先ヅ生徒ニ其ノ方位ヲ質シ、一生ヲ呼ビ出シテ、黑板上ニ其ノ方位ノ所在ヲ記セシム、生徒ノ記ハ大抵小ナルヲ以テ教師更ニ生徒ノ文字ニ倣ヒ書換フベシ、然後教室ノ形狀平面ヲ板上ニ描キ示スコトヲ告グ、左ノ如キ問答ヲナス。

此教室ハ幾側ヲ以テ圍ムヤ。

四圍皆同長ナルヤ。

此ノ時間竿ヲ與ヘテ、生徒ニ四圍ノ長ヲ量ラシメ、又各生ニ其ノ長サヲ踏マシメ、歩足ヲ以テ之レヲ量リ、教師之レヲ縮尺シテ、長短大約ノ割合ヲ教ウ。

何レノ側ガ北方ナルヤ。

板上何處ニ北側ヲ顯スベキヤ。

其ノ長サハ凡幾何トスベキヤ。

南側ハ何處ニ顯スベキヤ。
其ノ長サハ如何。

何故ニ南北兩側ヲ顯ス線ヲ同長ニスルヤ。

教室ノ何レノ方ニ出入口アルヤ。

出入口アル西側ノ線ハ何處ニ描クベキヤ。

未板上ニ顯ハレザルハ何レノ側ナルヤ。

板上何處ニ其ノ線ヲ顯スベキヤ。

板畫ニ作レル圖ハ如何ナル形ナルヤ。

長方形ノ各邊ハ何ヲ顯ハスヤ。

教室ノ壁ハ幾何アリヤ。

然ラバ此ノ圖ハ何ヲ顯スヤ。

次ニ生徒ヲシテ教室内ニ在ル出入口、黑板、教師、生徒ノ机卓等ノ位置ヲ測ラシメ、之レヲ圖中正當ノ位置ニ納メシム、最後ニ牆板上ノ圖ト、教室ノ四壁器具ト對照シテ問答練習ヲナス、後各生ヲシテ石板上ニ之レヲ描カシム。

面積ノ觀念 先ツ平面ノ觀念ヲ與ヘ、平面ニハ粗面ト滑面トノ二種アルコトヲ教ユ、又水平面ト斜面トノ別アルコトヲ説キ、最後ニ平面ヲ量ルニハ一寸四方、又ハ一尺四方、或ハ一間四方ヲ以テ基本トスルコトヲ教ウベシ、其ノ方法タル机、又ハ黑板、教室ノ床等ノ面ハ、皆平面ナルコトニ就テ、平面ノ觀念ヲ啓キ、一枚ノ大紙ヲ取テ机面ニ置キ、其ノ面ヲ示シテ之レヲ滑面ト稱スルコトヲ教ユ、再其ノ紙ヲ揉ミテ皺トナシ、此ノ如キ面ハ無數ノ凹凸アリテ滑面ニアラザルコトヲ示シ、其ノ區別ヲ明カニ覺知セシメ、或ハ又洋紙用紙ニ糊ヲ布キ、之レニ細砂ヲ一面ニ粘附シタル面ヲ示シ、此ノ如キ面ヲ粗面ト云フコトヲ教ウ、而シテ十分其ノ觀念ヲ得セシムルニ於テハ、校庭又ハ道路等ニ就テ之レヲ練習スベシ、次ニ水平面ト斜面トノ區別ヲ示シテ、其ノ觀念ヲ得セシムルニハ、小黑板様ノ板ヲ取テ机上ニ置キ、其ノ板ノ一端ニ黑板拭ヲ挟ミテ傾斜面トナシ、生徒ニ机面ト小板面ト異ナルヤ否ヲ問ヒ、机面ノ如キヲ水平面ト呼ビ、其ノ上ニアル小板面ノ如キ、一方高ク一方低キ面ヲ斜面ト云フコトヲ教ウ、斯クシテ數多ノ練習ヲ爲シ、後水平面ニ水滴ヲ落スモ、面上ヲ走ラザルニ、斜面上ニ水滴ヲ落セバ、直ニ其ノ面ヲ流走スルコトヲ示シ、且斜面ノ傾度甚シ

キニ至ルニ從ヒ、流走ノ速ナル等ノコトヲ教ユ、次ニ水平面陸面平地ト名クルコトヲ説キ、校庭等ニ就テ之レヲ練習シ、終ニ想像力ニ訴ヘテ大平原ノ觀念ヲ入ルベシ。

然後白紙ニ一寸平方ノ縱橫線ヲ引キタルモノヲ示シ、又之レヲ黑板上ニ寫シ、生徒ニ尺度ヲ與ヘテ其ノ平方邊ヲ量ラシメ、總テ此ノ如キ面ヲ量ルニハ、其ノ面内ニ一寸四方面ノモノ幾何ヲ含ムト云フコトヲ以テシ、猶大ナルモノ、平面ヲ量ルニハ、一尺四方面幾何ヲ含ムト云フコトヲ以テス、而シテ最大ナル面、乃チ陸地面ノ如キハ、一間四方面乃至一里四方面幾何ヲ以テ量ルコトヲ教ユ、十分練習シタル後、之レヲ面積ト稱スルコトヲ説明スベシ。

最後ニ至リ總テ方形面正長方形面及ビナレバ相接スル二邊ノ長サヲ相乘シテ、其ノ面積ヲ知り得ルコトヲ實算シ、生徒ヲシテ之レヲ數ヘシメ、其ノ果シテ然ル所以ヲ十分ニ了解セシム、而シテ猶練習トシテ札面及ビ黑板面等ノ積ヲ計算セシムベシ。

距離配法ノ觀念 生徒ノ既學習セシ教室ノ略圖ヲ問答覆習シ、最大配法ヲ以テ製シタル教室ノ圖ヲ示シテ、其ノ何ノ圖ナルカヲ判定セシメ、又小配法ニ依リ

テ製シタル同圖ヲ示シ、相互比較シテ、共ニ同一ノ教室ヲ圖セシモノナレモ、之レヲ大ニ寫セシト、小ニ圖セシトノ差アルコトヲ、問答ニ依リテ十分了解セシメ、猶生徒各自ノ熟知セル物体ヲ寫セシ大小二圖ヲ示シ、如何ナルモノニテモ、之レヲ描寫スル方法如何ニ依リテハ、或ハ大ニ、或ハ小ニ表ハスコトヲ得ルモノタルノ觀念ヲ收得セシム、次ニ剪刀ノ如キ左右兩々相對スルモノニシテ、生徒ノ日常熟知セル物体ノ左右、其ノ比例ヲ異ニセル圖ヲ示シ、此ノ圖ハ何ナルヤ、剪刀ヲ正シク寫セシ圖ナルヤヲ問答シ、左右兩片大小ノ差アリテ、正シキ圖ニアラザルコトヲ發見セシメ、然後凡テ物ハ大小孰レニモ之レヲ表ハスコトヲ得ルト雖、其ノ物ノ各部ニ於テ、正シキ比例ヲ有セシムルニアラザレバ、此ノ圖ノ如ク正當ナル形狀ヲ表ハサハルモノナルコトヲ教ニ、次ニ左ノ如キ問ヲ設ケテ之レヲ練習スヘシ。

曾テ教室ノ形狀ヲ黑板上ニ寫セシトキハ如何ニセシヤ。

汝等ハ何ヲ以テ教室ノ四側ヲ量リシヤ。

黑板上ニ之ヲ寫セシトキハ間數ヲ何ニ改メシヤ。

如何ナレバ間數ヲ尺數ニ縮メシヤ。

北側ノ長サヲ尺數ニテ表ハセバ他ノ各側モ皆尺數ニテ表ハス所以ハ如何。

比例トハ如何ナルコトゾ。

最後ニ至リ此ノ如ク凡テ物ハ各部其ノ比例ヲ正シクシ、距離ノ長サヲ縮メザレバ、大ナルモノヲ正シク圖ニ描寫スルコト能ハザルヲ以テ、地圖ヲ描クニモ、其ノ圖中ニ表ハスベキ物ノ位置、大小、距離ノ長短ハ、皆正當ノ比例ヲ保タシメザルベカラザル所以ヲ説明シ、之レヲ地圖配法ト云フコトヲ教ニ、適當ノ練習ヲナシテ十分其ノ觀念ヲ鞏固ナラシムベシ。

次ニ町數ヲ以テ量ル土地ノ地圖配法ニ移リ、左ノ順序ニ由テ其ノ觀念ヲ十分ナラシムベシ。

茲ニ描キタル教室ノ圖ヲ實際ノ大サニ比較セバ如何。

實際ノ間數ヲ何ニテ表ハセバ斯ク小サクナルヤ。

汝等數十間アル距離ヲ唱フルニハ何ヲ用ウベキコトヲ學ビシヤ。

汝等曾テ幾十間ヲ以テ一町トスルコトヲ學ビシヤ。

汝等ハ自家ヨリ學校ニ至ル距離ヲ數フルニハ何ヲ用井ルヤ。
 何故ニ尺數ヲ用井ズシテ町數ヲ用井ルヤ。
 汝等ガ知ル此ノ學校ヨリ凡一町ヲ距ル場所ヲ云ヘ。
 其ノ場所ト此ノ學校トナ一圖ノ中ニ表ハスニハ町ニ代フルニ何ヲ以テ
 スベキヤ。

若町ニ代フルニ尺ヲ以テ描ケバ、其ノ圖ハ實際ト如何ニ異ナルヤ。
 若町ニ代フルニ寸ヲ以テセバ如以。

右ノ如キ問答ニ依リ、町ノ觀念ヲ喚起シ、町數ヲ寸尺ニ變ジテ圖セバ、其ノ圖ノ益々
 小ナルコトヲ覺ラシメ、後其ノ問答ヲ整理シテ簡單ニ説明シ、明確ナル觀念トナサ
 シメ、猶實際生徒ヲシテ道路等ニ就テ、町數ノ測量ヲ爲サシムルヲ得バ最モ可ナリ
 トス、其ノ法タル十間繩ヲ取り、間尺ヲ以テ其ノ繩ヲ量ラシメ、之レヲ一生ニ與ヘ、道
 路ニ沿フテ、其ノ繩ヲ張ラシメ、他ノ一生ニハ標木六個ヲ與ヘ、其ノ繩一張毎ニ一個
 ノ標木ヲ置キ、斯クシテ六個ノ標木悉盡クルニ於テハ、其ノ距離一町ニ滿ツルコト
 ナ各生ニ實驗セシム、而シテ後十間繩六張ノ長サヲ以テ一町トナル、故ニ十間ノ六

倍乃一間ヲ六十倍スレバ、一町トナルコトヲ了解セシムベシ。
 最後ニ六十間ナル一町ヲ一間ニテ表ハシタル圖ハ、凡テ實際ノ距離六十分ノ一ニ
 減シタルヲ以テ、其ノ圖ノ實際ヨリ小ナルコトヲ説明シ、猶一町ヲ一寸ニテ表ハセ
 バ、其ノ圖ノ一層小ナルコトヲ了解セシムベシ、此ノ如クシテ稍々其ノ了解シタル時
 ニ至テハ、各種配法ニ依レル同一ノ圖大小種々ノ教室ヲ示シテ、之レヲ比較セシメ、
 同距離ニシテ其ノ長サノ皆異ナルコトヲ確メ、後ニ地圖ハ配法ノ増スニ從テ距離、
 面積ノ縮小スルコトヲ教ウベシ。

學校全圖 生徒既ニ問數ノ觀念アルヲ以テ、先ツ學校四境ノ方位ヲ問答シ、
 境柵ノ長短、距離ヲ推量セシメ、後教師其ノ四方位、距離ヲ正シテ問數ヲ寸尺ニ改メ、
 黑板上ニ之レヲ圖シ、次ニ校舍ノ位置ヲ生徒ニ質シ、其ノ四壁ノ間數ヲ問フテ又之
 レヲ記入シ、前課ノ終リニ於テ各生ニ豫四境ノ方位、距離及ビ校舍校門其ノ他樹木
 周圍ノ間數ヲ測量セシムルコトヲ注意シ置クヲ可トス、
 等ノ位置ヲ問答シテ一々之ヲ記入シ、後猶全体ニ就テ問答シ、各生ヲシテ其ノ親ク
 知ル所ノ校舍出入口等ヲ、一々記入セシムルヲ得バ、大ニ興味アリトス、若又生徒ト
 問答シツ、直ニ黑板上ニ學校全体ノ略圖ヲ描寫スルヲ困難ニ感ズルモノハ、豫其

ノ略圖ヲ大紙ニ描寫シ置キ、生徒ニ四境ノ方位、境柵ノ距離等ヲ問答シ終ラバ、其ノ圖ヲ板上ニ吊シテ前法ヲ行フベシ、而シテ四方位、形狀、位置等ヲ概略了解シ、其ノ觀念ヲ得ルニ及ベバ、各生ニ尺度ヲ與ヘテ、其ノ略圖ヲ石板上ニ練習セシム、此ノ間教師ハ生徒ノ机間ヲ廻リテ其ノ正否ヲ觀察シ、方位、長短、位置等ニ就テ、甚シク誤寫セルモノ稍多キヲ發見セバ、其ノ中ノ一ヲ取テ黑板上ニ描キ示シ、各生ニ其ノ誤リヲ發見セシメ、各自訂正セシムベシ。

學校近傍ノ地圖及ビ地理 既學校全体ノ略圖ヲ描キ、其ノ方位及ビ諸物ノ位置等ヲ了知スルニ於テハ、問答法ニ依テ町數ノ觀念ヲ確メ、學校ヲ距ル一町、又ハ數町ノ所ニ在ル著名ノ塲所ニシテ、生徒ノ知了セルモノヲ舉ゲシメ、此ノ如キ町數ヲ以テ量ル距離ノ土地ヲ一圖ノ中ニ表ハスニハ、其ノ配法ヲ増シテ距離、面積ヲ小ナラシメザレバ、其ノ全体ヲ表ハスコト能ハザル所以ヲ説明シ、次ニ學校近傍ノ道路ヲ黑板上ニ記シ、學校ノ位置ヲ標記シテ四方位ノ起點トナシ、生徒昇校ノ道路ヲ問答シ、自家所在ノ方位ヲ問ヒ、然後某ノ道路ヲ指示シ、之レニ依テ昇校スル生徒ヲシテ、途次目撃セシ著名ナル建物、又ハ川流、橋梁、溝渠、鐵道、官衙、堂塔等ヲ陳述セシ

メテ、之レヲ圖中ニ標記スベシ、其ノ方法タル一生徒ニ一物ヲ述ベシメ、之レヲ標記シ終ラバ、次ノ生徒ニ次ノ物ヲ陳ベシメ、若著大ナル物ヲ誤脱スルコトアラバ、全級生徒ニ向テ何カ誤脱セシモノ無キヤヲ問フベシ、而シテ他ノ道路モ亦之レト同様ニ爲シ、其ノ物件ヲ記入スレバ、教課ニ一層ノ快活ヲ加フルヲ以テ、生徒敢テ倦ムコト無クシテ、近傍ノ地圖ヲ作り得ルヲミナラズ、其ノ地理ノ大体ヲ會得スルニ至ルベシ、然後猶練習トシテ生徒ヲ卒井校外ニ出テ、學校所在ノ市邑、村落ヲ眼下ニ見ルベキ丘陵ニ登リ、既教室内ニ於テ作りタルモノト同様ノ地圖ヲ縮キ、之レニ就テ實際生徒ノ見ル所ノ著明ナル物件ヲ指示シ、其ノ位置、方位ヲ實地ト照合セシメテ、明確ナル概念ヲ得セシムベシ、蓋兒童ハ始メテ高處ヨリ近傍全体ノ地形ヲ觀察スルトキハ、平素既知了シタル所ニテモ、尙地上諸物ノ大小、距離ヲ認定スルニ苦ムモノナリ、是レ平地ニ於テ視シヨリモ、遙ニ廣濶ナル場所ヲ一目ニ視ルヲ以テ、地上諸物ハ皆實際ヨリ小ナルガ如キ感アレバナリ、故ニ正當ノ認定ヲ得シニハ、多少ノ經驗ヲ要スルモノナレバ、再三實地ノ演習ヲ爲サハルベカラズ、而シテ最後ニ官衙、橋梁、堂塔、又ハ川流、沼澤等ニ就テ、其ノ功用來歴ヲ説明シ、遂ニハ生徒ヲシテ記憶上ヨリ

略圖ヲ描キ得ルニ至ラシムベシ。
 然レドモ市街ノ學校ニ在テハ、村落學校ノ如ク、生徒ヲ卒キテ屢々校外ニ出テ、地理
 上實地ノ演習ヲナスニ極メテ不便ナルヲ以テ、多クハ教室内ノ教授ノミニ依ラザ
 ルヲ得ズト雖、亦寺院ノ塔若クハ高層ノ建物等ニ登リテ、之レヲ行フコトヲ得ハ、最
 可ナリトス、且市街ノ村落ニ優リテ利アルハ、物産、工業、其ノ他政治的地理ニ關スル
 材料ノ擲ナカラザルコト是レナリ、故ニ豫其ノ順序ヲ正シ、種類ヲ定メテ、極メテ卑
 近ニシテ生徒ノ容易ニ視察シ得ベキモノヨリ、問答法ニ依テ之レヲ教授セハ、亦大
 ニ利益アルモノトス、唯自然地理ノ材料ニ乏キハ、村落學校ニ及バザル所ナリ。
 自然地理ノ事實 兒童ガ早ク注意ヲ傾クルハ、自然ノ區畫顯象ニシテ、決シ
 テ行政區畫等政治的ノモノニハ心ヲ留ムルコトナシ、從テ容易ニ兒童ノ腦裡ニ入
 ル能ハズ、是レ政治的ノ事實ハ、錯雜シテ理會シ易カラザレバナリ、故ニ學校所在ノ
 地圖ヲ製シ終ラバ、山岳、丘陵、河湖、沼澤等、生徒ノ日常目擊經驗スル所ノ天然ノ事柄
 ニ就テ、十分ニ其ノ概念ヲ與ヘ、天然ノ形勢ニ注目スルノ慣習ヲ養成シ、將來世界全
 體ノ何タルヲ理會スルノ根據トナスベシ、而シテ之レヲ爲スニハ前課ニ於ケル如

ク、高處ニ登リ學校ヲ中心トシテ近傍ノ地勢ニ注目セシメ、山岳、河流、岬灣、谿谷、湖沼
 等ノ大体ノ形狀ヲ點檢セシメ、或ハ又模型地圖若クハ起伏地圖ヲ示シテ之レヲ點
 檢セシメ、以テ其ノ概念ヲ與ヘ、後其ノ名稱功用ヲ了知セシムベシ、抑兒童ノ心意ハ、
 從來自個ヲ中心トシテ、頗狹小ナル境域ニ制限セラレ、實際ノ諸物ヲ離レテ未地方
 的全体ノ觀念アルニアラズ、然ルニ茲ニ至テ大ニ其ノ境域ヲ擴メ、地理上諸物ノ形
 狀、及ビ相互自然ノ關係等ヨリ、地文上ノ顯象ニ涉ル、地方的全体ノ形勢ノ概念ヲ得
 セシムルモノナレバ、兒童ノ心意ニ一大變化ヲ生セシムルモノト云フベシ、故ニ急
 劇ノ變化ヲ與ヘズシテ、漸次變化シ來ルノ方法ヲ求メザルベカラズ、乃最初ヨリ多
 數ノ生徒ガ理會ニ苦ムガ如キ定義ヲ以テセズ、生徒ノ日常經驗ノ範圍内ニ於ケル
 實例ヨリ、漸次關係ヲ追フテ事實ノ大体ヲ理會セシメ、以テ未實地ニ目擊經驗セザ
 ル有様ヲモ、猶之レヲ正當ニ心裡ニ想像シ得ルニ至ラシムベシ。

(一) 丘陵及ビ山岳 丘陵ノ觀念ヲ啓クニハ、先ヅ平地ノ觀念ヲ喚起シ、平地ト

丘陵トノ相異ナル點ヨリ問答法ニ依テ誘導シ、心中ニ其ノ形狀等ノ正當ナル想
 像ヲ描カシメ、猶實地ニ就テ之レヲ確ムルヲ可トス、今左ニ其ノ教授ノ方法ヲ揭

グベシ。

題目 丘陵

教授方法

(一) 復習

汝等ノ學ビシ水平ナル陸面トハ如何ナリシヤ。
教室又ハ遊歩場ノ如キ平ナル陸地ヲ汝等何ト云フヤ。

一 生ヲ指シテ答ヘシメ、後二三生ニ及ボシ、級決教可ヲ行フ。

(二) 丘陵ノ觀念ヲ啓ク

今黑板上ニ水平線ヲ引テ平地ヲ表ハスベシ。

汝等毎日昇校スル道ニ高キ所アルヲ見ザリシヤ。

平地ヨリ高キ地ヲ板上ニ表ハスニハ如何ニスベキヤ。

此時生徒ノ答ヘニ從テ水平線上ニ高所ヲ描ク。

今余ガ畫キシハ何ナルヤ。

然リ、此ノ高キ地ヲ何ト云フヤ。

汝等知レル丘陵^{チカ}ヲ語レ。

然リ、此ノ如ク地上ノ稍高キ所ヲ丘陵ト云フナリ。

(三) 丘陵ト堤陵トノ區別

汝等川ノ兩側又ハ沼ノ周圍ニ平地ヨリ高キ所アルヲ知レルヤ。

之レヲ何ト云フヤ。(知ラザレバ教ウ)

然リ、堤陵ハ何ノ爲ニ川ノ邊ニアルヤ。

堤陵ト丘陵トハ如何ニ異ナル所アルヤ。

然リ、堤陵ハ大抵狭クシテ長キモ、丘陵ハ大約廣クシテ大ナリ。

(四) 結論

地上稍高キ所ヲ何ト云ヒシヤ。

丘陵ト云ヘリ。

川ノ兩岸又ハ沼ノ周圍ニアル高キ所ヲ何ト云ヒシヤ。

堤陵ト云ヘリ。

然リ、今其ノ二個ノ區別ヲ語ラン、注意シテ聞クベシ。

丘陵トハ天然ニ出テ大抵廣ク大ナルモノナリ、堤陵トハ人工ヲ以テ造リ、河水又ハ他ノ水ノ漲溢スルノ害ヲ防グモノナレバ、通常狹クシテ長キモノナリ。

此ノ如ク問答ニ依テ丘陵ノ觀念ヲ啓キ、又丘陵ト堤陵トノ區別ヲ明瞭ニシ、且其ノ形狀功用等ヲ説明シ、次ニ丘陵ヨリ猶高ク陸上ニ管ユルモノヲ何ト云フヤハ問ヒ、山岳ナルコトヲ覺知セシメ、既黑板上ニ描ケル水平線上ニ記セシ丘陵ト比較シテ、山岳ノ形狀ヲ描キ、山頂、山腹、山麓等ノ部分ヲ指示シテ、此ノ如ク山ノ最高キ所ヲ山頂ト云ヒ、山ノ周圍ノ低キ所ヲ山麓ト云フ、而シテ山頂ト山麓トノ中間ヲ山腹ト稱ス、又山頂ヨリ山麓ニ至ル斜面ヲ山斜面ト云ヒ、山岳ノ立ッ底面ヲ山底ト云フコトヲ教エ、山頂ヨリ山底ニ垂直線ヲ引キ、之レヲ量リテ山斜面ヲ表ハス線ノ長サト比較シ、凡テ山ノ直高ハ、山斜面ノ長サニ比スレバ、短カキコトヲ知了セシムベシ、次ニ淺キ箱等ノ上ニ濕ヒタル砂土、又ハ粘土ヲ以テ、山岳及ビ丘陵ノ形狀ヲ造リ示シテ、其ノ部分ノ名稱ヲ問答シテ之レヲ確メ、最後ニ其ノ近傍著名ノ高山ニ就キ、吾人若此ノ山ノ麓ニ至リテ、之レニ登ラントセバ、其ノ山麓ヨリ山

斜面ヲ攀テ、次第ニ登ルニ從テ步行漸困難ニ、體温増加シテ汗背ヲ浸スモ、猶之レヲ忍ベバ遂ニ山頂ニ達スベシ、山頂ハ清風冷カニシテ、心氣爽快ヲ覺ヘ、遙ニ四方ヲ望メバ、遠近ノ景色眼中ニ集リ、頗壯觀ナリ。暫シテ再山斜面ヲ降レバ、前ト異ナリテ步行稍容易ニ、且速カナルヲ覺ユル等、快活ニ談話スレバ、殊ニ教授上ニ効アルベシ。

(二) 山脈及ビ谿谷

既山岳ノ觀念ヲ得ルニ於テハ、模型圖又ハ地圖ヲ示シテ、山岳ト稱スルモノハ、單獨ニ孤立セズシテ、大抵連亘一帯ノ脈ヲ爲スコトヲ覺知セシムベシ、乃先ヅ生徒ニ汝等既陸上平地ヨリモ高キ所ヲ何ト云フコトヲ學ビシヤヲ問答シテ、平地ノ稍高キ所ヲ丘陵ト云ヒ、猶更ニ高キモノヲ山岳ト云フコトノ觀念ヲ誘起シ、次ニ模型圖若クハ地圖ヲ示シテ、何レガ丘陵ニシテ何レガ山岳ナルコトヲ覺ラシメ、猶各生ヲシテ精細ニ山岳ノ連亘セル形狀ヲ觀察セシム、斯クシテ種々適宜ノ問答ヲ以テ漸次誘導シ、大約山岳ト稱スルモノハ、單獨ニ孤立スルモノ無ク、長ク連亘シテ一帯ノ脈ヲナスコトヲ自覺知スルニ至ラシメ、然後此ノ如ク山岳ノ連亘一貫スル本体ヲ山軸ト云フ、而シテ同軸ヲ以テ相連リ、又

ハ同軸ヨリ分派スルモノヲ總稱シテ山脈ト云フ(同地質ニシテ一貫スル山脈ト云フナリ)コトヲ教エ、山脈中間錐狀ヲ爲シ、其ノ山頂ニ噴火口、又ハ其ノ蹟アルモノヲ火山ト稱シ、其ノ現ニ火烟ヲ噴出スルモノヲ活火山ト云ヒ、噴出ノ既絶ヘタルモノヲ死火山ト云フ、而シテ火山中或ハ孤立スルガ如キ觀ヲ爲スモノアルモ、其ノ實脈ヲ有スルコトヲモ教ウベシ。

次ニ山岳ノ連亘一貫スル山軸ヨリ、分派シタル諸山ノ間ニ低地アリテ、互ニ之レヲ分割スルノ狀ヲ觀察セシメ、此ノ如ク諸山ノ間ニアリテ、之レヲ分割スル低地ヲ豁谷ト稱スルコトヲ教エ、猶幸ニ近傍ニ生徒ノ實地觀察スルニ容易ナル山脈、及ビ豁谷アラバ、之レニ就テ實地練習ヲ爲スベシ、而シテ最後ニ至リ數多ノ山脈群集シテ蜿蜒連亘スルモノハ、之レヲ山系ト稱スルコトヲモ教フベシ。

(三) 豁流及ビ川流 山岳ハ陸上平地ヨリ高ク空際ニ聳エテ、山頂ヨリ山麓ニ至ル傾斜面ヲナスコト、恰モ汝等自家ノ屋上ノ形狀ニ類セリ、汝等日常親ク見ル如ク、人家屋上ノ形狀ハ、其ノ項ヨリ兩側ニ斜面ヲナスカ、或ハ四方ニ斜面ヲ有スルナリ、是レ如何ナル爲ナルヤ、降雨ノトキ屋上ノ雨水ヲシテ此ノ斜面ヲ流下セシ

ムル爲ナラズヤ、山腹ニ於ケルモ亦之レト等ク、山頂又ハ山腹ニ降りタル雨水ハ、山斜面ヲ流下シテ、山麓ノ平地ヲ灌溉スルナリ、然レドモ屋上斜面ヲ降ル雨水ノ如ク、山斜面ノ全体ヲ流下スルニアラズシテ、必一條ノ水路ヲ求メテ流下ス、之レヲ豁流ト云フナリ、此ノ豁流數多相集リテ川流ヲ爲ス、汝等常ニ見ル所ノ川流ハ、即此ノ豁流ノ集合シタルモノナリトコトヲ地圖等ニ就テ十分理會セシメ、川ノ合シテ大ナルモノヲ河ト云フコトヲ教ウベシ。

次ニ問答法ニ依リ、冬期極寒ノ時汝等高山ノ頂ニ如何ナル色ヲ呈ズルヲ見シヤ、其ノ白色ニ見ユルモノハ何ナルヤ、雪ハ暑熱ノ候ニ赴ケバ何トナルヤ、山頂ノ積雪融解スルニ至レバ如何等ヨリシテ、川流ハ單ニ山上ニ降りタル雨水ノ流下スルノミニアラズ、又山上ノ積雪温暖ニ向テ漸次融解シ、絶ヘズ流下スルヲ以テ、川流ノ常ニ游々トシテ盡キザルコトヲ了解セシムベシ。

次ニ黑板上ニ川流ノ圖ヲ描キテ一々其ノ部分ヲ指示シ、此ノ如ク川ノ始メテ流出スルトコロヲ川源ト云フ、又水源ト云ヒ、其ノ川ノ流走スル距離ヲ流程ト云ヒ、川ノ他ノ水流ニ注入スルモノヲ支流ト云ヒ、數多ノ支流ヲ受ケテ奔流スルモノヲ本

流ト云ヒ、又河ノ他水ニ注入スル所ヲ河口ト云フコト、及ヒ河ノ兩側陸ニ接スルトコロヲ河岸ト稱シ、川源ヲ背ニシ、河口ニ向テ、右側ナルヲ右岸ト云ヒ、又左側ナルヲ左岸ト云フ等ノコトヲ教エ、種々ノ問答ニ依テ以テ之レヲ練習シ、河水ガ此ノ如ク流勢ヲ有スルハ何故ナルカ、川流ニ舟楫ノ便ヲ得ザルモノアルハ何故ナルツ等ヨリシテ、河水ノ功用ヲ説キ、若近隣ニ川流アラバ、實地ニ就テ之レヲ練習スルヲ尤可ナリトス、最後ニ至リ、河水ノ如ク一方ヨリ他方ニ向テ奔流スル水ヲ動水ト云フ、動水ニハ傾斜セル平地ヲ流ル、モノト、山腹丘陵等ノ絶壁ヲ飛降スルモノトアリ、絶壁ヲ飛降スルモノ之レヲ瀑布ト云フコトヲ教エ、日光山ノ諸瀑布ノ如キ、一般ニ有名ナルモノヲ舉ゲテ快活ニ談話スベシ。

(四) 湖沼 湖沼ノ觀念ヲ啓クニハ、通常生徒ノ親ク知レル所ノ池ヲ以テ始ムルヲ可トス、然レドモ既湖沼ヲ實見セシコトアリテ、多少其ノ觀念アル者ニハ、直ニ其ノ有スル泛濫タル觀念ヲ喚起シテ、以テ之レヲ限定シ、且明瞭ニナスベシ、而シテ池ノ觀念ヨリ始ムルニハ、例ヘバ汝等如何ナル處ニ水ノ溜マルカヲ知レルヤ、汝等ハ常ニ水ノ溜リ在ル處ヲ知レルヤ、池ニハ何故ニ水ノ溜マレルヤ、汝等池ノ

周圍ヲ廻リ得ルヤ、何故ニ池ノ周圍ヲ廻リ得ルカ等ノ問答ニ依テ、池ノ四方ハ陸地ヲ以テ圍マレタルコトヲ覺知セシメ、若陸地ニ大ナル深キ凹處アリテ、之レニ水ノ溜ルアラバ、如何ナル有様ヲナスベキヤ、水ノ深ク大ナル處ニハ、舟ヲ浮ベ得ルヤ等ニ就テ猶問答シ、次ニ黑板上ニ湖ノ圖、及ビ之レニ浮ブトコロノ舟、又ハ汽船其ノ他近傍ノ山岳、人家等ヲ描キ、之レト比較シテ池ノ大ナルハ如何ナルモノタルヲ覺ラシメ、遂ニ想像力ニ訴ヘテ池ノ觀念ヲ擴メ、汽船ノ航行スベキ大サヲ有スル湖ノ觀念ヲ啓キ、次ニ四面陸地ヲ以テ圍マレ、深ク大ナル池ノ如クニ靜水淹溜スルモノヲ總テ湖ト稱シ、其ノ水淺ク且小ナルモノニシテ泥土深キハ、之レヲ沼ト云フコトヲ教エ、猶圖ヲ示シテ湖岸、湖底、湖深等ノ名稱ヲ説明シ、然後其ノ練習ヲ爲シ、且湖ノ觀念ヲ確ムル爲ニ、日常人口ニ繪炙シタル有名ナル大湖琵琶湖、琵琶湖、琵琶湖等ノ談話ヲ爲シ、大湖ハ時ニ或ハ山岳等ヨリ襲來スル嵐ノ爲ニ、波立チテ船舶等不時ノ害ヲ蒙ムルコトアル等ノ談話ヲナスベシ。

(五) 海洋 池ノ大ナルモノヲ湖ト稱スルコトハ、既汝等ノ學ビシ所ナレバ、能ク識了セシナラン、而シテ池ト云フモ、又湖ト云フモ、唯大小深淺ノ差アルノミ、皆靜

水。以テ充滿セルモノナリ、然ルニ湖ハ周圍遙ニ遠クシテ水面廣ク、汽船ノ航行スルモノアルヲ語リシヲ以テ、汝等能ク知リシナラン、此ノ湖ヨリ猶大ナル靜水ヲ淹溜シテ水面無窮ニ亘リ、極メテ廣大ナルモノアリ、汝等之レヲ知レルヤ、汝等自家ニ於テ日常食スルトコロノ鹽ハ、何レヨリ取りタルモノナルヲ知レルヤ、汝等時々食スルトコロノ魚類ハ、如何ナル處ニ居ルモノナルヲ知レルヤ等ノ問答ヨリシテ、海ナル觀念ヲ誘起ス、若海邊ヲ距ル遠キ山間ノ地ニアリテハ、生徒ノ未シテ、其ノ極メテ廣大無量、一物ノ眼畔ヲ遮ルモノナキ、靜水ノ充滿セル處アルコトヲ想像セシメ、地圖又ハ模型圖ヲ示シ、猶之レヲ觀察セシメ、以テ其ノ想像ヲ確ムベシ、而シテ稍々正當ナル想像ヲ得ルニ於テハ、漸次歩ヲ進メテ、海水ハ其ノ面廣キヲ以テ、常ニ風ノ爲ニ水面動搖シテ波浪ヲ生ズルコト、恰モ春時麥葉ノ風ヲ受ケテ動搖シ、波狀ヲ爲スガ如キコトヲ談シ、數多ノ船艦之レヲ航行シテ、航客及ビ種々ノ貨物ヲ運送シ、漁民常ニ小舟ヲ浮ベテ捕魚ノ業ヲナシ、市中賣買スルトコロノ魚類ハ、大約此ノ海中ニ棲息スルモノタルコトヲ知ラシメ、且海水ハ鹹味ニシ

テ、河水又ハ湖水等トハ、其ノ味異ナレルコト、及ビ汝等常ニ食スルトコロノ鹽ハ此ノ海水、中ヨリ採リシモノタルコトヲ説キ、最後ニ至リ、海洋ハ靜水ノ最大ナルモノニシテ、其ノ陸地ニ近キモノヲ海ト云ヒ、遠キモノヲ洋ト云フ、汝等能知レルトコロノ毛布ノ如キハ、遠キ外國ヨリ船ニ積ミ、洋ヲ渡リテ我が邦ニ持來リシモノナルコトヨリ、進テ海水ノ陸地ニ接スル處ヲ海岸ト云ヒ、海水ノ陸地ニ灣入スルモノヲ灣ト云ヒ、灣ノ深クシテ且風波無ク、船舶ノ安全ニ碇泊シ得ル處ヲ港ト云フコトヲ、一々地圖ニ就テ指示シ、以テ其ノ觀念ヲ得セシメ、幸ニ海邊ナリセバ、時々生徒ヲ率井テ、實地ニ就キ之レヲ練習スベシ。

郡ノ地圖及ビ地理 既丘陵、山岳、川流、湖沼等自然地理ノ事實ノ觀念ヲ得ルニ於テハ、次ニ黑板上ニ郡ノ外形圖ヲ描キ、學校所在地ヲ標記シ、著大ノ道路ヲ記入シ、問答法ニ依テ丘陵、山岳、川流、湖沼、村落等ヲ各々適當ノ場處ニ記入シ、其ノ名稱ノ著名ナルモノヲ教エ、次ニ郡中居村ノ位置及ビ他村トノ關係、丘陵、川流、沼池等ヨリ受クル土地ノ影響、氣候、物産、人民ノ職業、交通ノ便否等、政治上ニ關スル大略ヲ實例ニ依テ説明シ、又人家輻湊ノ地アラバ、其ノ土地ノ繁盛ニ赴キシ由來、或ハ著名ナル

歷史上ノ古跡アラバ、猶其ノ大要ヲ談話シ、以テ愛郷心ヲ喚發スベシ。斯クシテ郡中全体表面ノ知識ト、其ノ代表物ノ知識トヲ與ヘ、地理學初歩ノ一階段ヲ終ルベシ。

以上陳アルトコロノ數項ハ、悉口授ニ依ルモノナレバ、一項一課ヲ終ルゴトニ、其ノ大要ヲ簡略明晰ニ結論シテ、生徒各自ニ筆記セシメ、後日ノ備忘ト練習用トニ供セシムベシ。

一 縣ノ地理 郡ノ地圖及ビ地理ヲ教授シ終ラバ、一縣ノ地理大要ニ及ブベシ、其ノ方法タル一郡地理ノ教授法ニ等シク、先ヅ黑板上ニ一縣ノ外形圖ヲ描キ示スカ、若クハ善良ナル縣地圖ヲ吊シテ之レヲ示シ、國道ヲ指シテ其ノ通過セル方向ヲ問ヒ、其ノ里數ヲ示シ、之レヲ旅行スルニ要スル日數ヲ生徒ト共ニ計算シ、又其ノ道路ト直角ノ方向ニ經過セル道路ヲ取りテ前ノ如クシ、一縣廣袤ノ大約ノ里數ヲ知了シテ、以テ其ノ廣サヲ想像セシメ、次ニ丘陵、山岳、谿谷、平原、及ビ川流、湖沼ノ大ナルモノヲ指示シテ、其ノ位置方向ヲ知ラシメ、以テ縣内一般ノ地勢、及ビ水利、氣候ノ概要ヲ考察セシメ、然後自郡ノ位置、境界ヨリ、各郡市ノ區畫、名稱ヲ教エ、著大ナル山脈、

及ビ川流ノ何郡ヨリ何郡ニ亘リ、或ハ何郡ニ發シテ何地ニ流注スルカヲ覺知セシメ、且其ノ著名ナルモノ、名稱ヲ授ケ、村落、郡邑ノ位置、及ビ鐵道、又著名ナル溝渠、港灣、建物等ヲ指示シ、物産、工業、賣買、其ノ他人民生計ノ狀態ヨリ、歷史上有名ナル神社、佛閣ノ位置、及ビ古跡等ノ由來ヲ快活ニ談話シ、後ニ教科書ニ就テ之レヲ讀マシムベシ。

日本國地理教授法概説

我が日本ハ萬國無比ノ一帝國ニシテ、皇祖、皇宗ノ國ヲ肇メ給ヒシ太古ヨリ、數千年ノ今日ニ至ルマデ、上ハ一系ノ皇室ヲ戴キ、下ハ我人臣民ニ至ル迄、子孫相繼テ此ノ國土ニ生活シ、其ノ惠澤ニ浴シ、生死ヲ國土ト共ニシテ、永ク祖先ノ祀ヲ絶タザルコト、蓋之レテ世界萬國ニ求ムルモ、決シテ比類スベキモノアラザルナリ、斯ル美國ニ生テ享ケタル民衆ハ、特ニ其ノ國土ノ形勢ヲ知り、其ノ歴史ヲ鑑ミ、忠君愛國ノ精神ヲ鼓舞シ、此ノ國土ト終始ヲ爲スノ覺悟無カルベカラズ、而シテ此ノ精神ヲ兒童ノ腦裡ニ堅確ナラシメンニハ、先ヅ自國ノ地理ト其ノ歷史上ノ事實トヲ連結シテ、以テ其ノ明瞭ナル觀念ヲ得セシメザルベカラズ、故ニ地理教授ヲ爲スニハ、自國ヲ以テ始ムベシ、是レ國民思想ヲ養成スルニ欲クベカラザルモノナリトス。

抑自國ヲ以テ始メトスルモ、地理科ノ性質タル遠隔ニシテ、未曾テ實地ノ狀況ヲ目撃セザル事項ナルヲ以テ、明瞭ナル觀念ヲ興フルコト頗難シ、故ニ主トシテ想像力ニ訴ヘシメザルベカラズ、然ルニ想像力ハ基礎ヲ觀察力ニ取テ、想像ノ材料ヲ富有

スルニアラザレバ、徒ニ空想ニ流レ、却テ地理ノ智識ヲ壞亂スルモノナルコトハ、既之レテ説ケリ、故ニ地理科ヲ教授スルニハ、教育一般ノ原理タル、生徒周圍ノ諸物ヨリ歩ヲ起シテ、先ヅ觀察ヲ確實ニシ、將來想像ノ資ニ供スル事實ノ觀念ヲ明確ナラシムルコトヲ主要トス、是レ先ニ生徒實際觀察シ得ルトコロノ事實ヨリ始メテ、府縣地理ニ至ルノ順序ヲ取リシ所以ナリ、然レドモ地理科ノ事實ヲ仔細ニ考察セバ、三種ニ分レテ自訴^オフル所ノ心力ヲ異ニスルガ如シ、依テ之レヲ左ニ略述シ、地理ヲ普通教育ノ一科トシテ教授スルニハ、此ノ三種ノ事實ヲ如何ニスルヲ利トナスカヲ述ベントス。

地理上事實ノ分類 地理上ノ事實ヲ分テ三種トス、乃名狀的、政治的、及ビ自然的ニ分レタリ、今此ノ三種ノ性質ニ就キ、教育上ヨリ仔細ニ考察スレバ、名狀的ノ事實ハ專生徒ノ想像力ニ訴フベキモノニシテ、興味深ク隨テ生徒ノ愛好スル所ナリ、然レドモ其ノ事實タルヤ、固ヨリ土地自然ノ形狀ヲ名狀シタルモノニシテ、自然的、及ビ政治的ノ事實ヲ包含スルモ、唯理學ノ方法ニ依テ組立ツルモノニアラザルノミ、政治的事實ハ人類ノ生活上ヨリ出タル結果ヲ綴述セルモノニシテ、國郡、市府、人

口、生業、物産等總テ人事ニ關係スルモノナルヲ以テ、生徒ノ記憶力ニ訴ヘシムベキ事實ナリ、而シテ自然的事實ハ前兩種ノ現象ヲ管理スル所ノ真理、乃普關ノ理法ヲ講ズルモノナレバ、主トシテ生徒ノ理性ニ訴ヘ、智心鍛練ノ一部タルベキモノナリ、此ノ如ク三種ノ事實ニ分ルト雖、普通教育ノ一科トシテ地理科ヲ教授スルニハ、毫モ此ノ區別ヲ要セザルノミナラズ、之レヲ混同シテ教授セザレバ、却テ利益尠ナシトス、唯茲ニ分類シテ其ノ區別ヲ示ス所以ノモノハ、其ノ事實ノ生徒心力ニ訴フル所自異ナルヲ以テ、教師タル者地理科教授ノ際、各事實ヲシテ其ノ訴ヘシムル所ノ心力ヲ誤ラザランガ爲、又自其ノ能力ヲ養ハントテ希望スルガ爲ナリ、例ヘバ名狀的事實ヲ教フルニハ、教師躬親ヲ觀察シタル國土ノ風景、又ハ形狀ヲ明瞭ニ、且雅美ニ演述スルノ能力ヲ要ス、而シテ此ノ能力ヲ磨カンニハ、平素親ク觀察スル所ノ事物、形狀ニ注意ヲ向クルコト緊要ナリトス、乃一地方ニ旅行セバ、必其ノ國土ノ平坦ナルカ否、山岳ハ峻嶮ナルカ否、谿谷ハ幽深ナルカ否、田野ハ廣濶ナルカ否、樹木ハ多ク個々ニ生育スルカ、或ハ所々ニ繁茂シテ森林ヲ爲スカ否、地質ハ沃肥ナルカ否、人家ハ散在スルカ、又ハ群集スルカ、否等ニ最注意スベシ。

右三種ノ事實ヲ混同スルノ利 名狀的、政治的、及ヒ自然的三種ノ事實ヲ混同シテ、教授スルノ利ハ種々アリト雖、其ノ主ナルモノヲ舉グレバ、因果ノ關係ヲ明瞭ナラシムルモノ是レナリ、乃自然的ハ地球上人類ノ未生活セザル時ニ於テ、猶既存シタル事實ヲ傳フルモノニシテ、政治的ハ人類ガ地球上ニ生活セシ結果トシテ、生シタル事實ヲ説クモノナレバ、自然的ハ政治的ノ因ニシテ、政治的ハ其ノ結果ナリトス、抑自然ノ不公平ナル地球上、或ル部分ニハ仁惠ヲ施ス厚クシテ、或ル部分ニハ極メテ慳吝酷薄ナリ、實産ニ富ム所アレバ、又毫モ産ヲ與ヘザル所アリ、加之自然ノ障壁ヲ築テ、人類相互ノ交通ヲ容易ナラシメザル所アレバ、又交通自在ニシテ民衆ノ幸福ヲ増進セシムル所アリ、彼ノ兩極ノ寒凜ナル人ヲシテ近ヅカシメザル所アレバ、炎熱燒クガ如キ熱帶地アリ、實ニ地球上部分ニ由テ慈惠慳吝ノ一ナラザルコト此ノ如シ、然レドモ是レ大ニ深味アルコトニシテ、此ノ如クナルガ故ニ、人類各其ノ想像力ヲ磨キ、美妙ノ心ヲ發達シ、又ハ各部分風俗、習慣ヲ異ニシ、生活ノ狀態、社會ノ性質ヲ別ニシ、遂ニ其ノ國土ヲ愛スルニ至レルモノニシテ、乃人事上ニ及ボス結果ニ大關係ヲ生ズルモノナリ、我ガ日本國ノ如キ島嶼ノ地ハ、自然ノ惠澤ヲ

受クル大ニシテ、頗幸福ナル國ト云フベシ、乃東亞細亞ノ利益ハ殆ンド之レヲ占ムルノミナラズ、氣候ノ序正シク、所謂中和ヲ得テ、他邦ニ優秀ナルヲ以テ、我が國ノ民衆ハ未彼ノ印度人民ノ如ク懶惰ニ陥ラズ、隨テ獨立ノ氣象ヲ失ハズ、又山水明媚ナルヲ以テ、自優美ノ情意ニ富ミ、爲ニ英國民衆ノ如ク鄙野貪欲ノ性ニ流レズ、蓋我が國古來隣國ノ文物政度ヲ容ル、ト雖、自國ヲ愛スルノ情強クシテ、妄ニ他國ヲ羨望セザル所以ノモノハ、遠ク大陸ヲ離レ孤立スルヲ以テナリ、又我が國洋中ニ獨立スト雖、支那、朝鮮等ノ如ク民衆ノ偏執ヲラザル所以ノモノハ、我が國ノ海岸線迂曲延長シテ、良好ノ港津ニ富ミ、宇内諸國ト交通自在ニシテ、多ク他邦ノ習俗ヲ視察スルノ便アルニ由ルナリ。

此ノ如キハ兒童ノ腦裡ニ傳ヘテ、愛國ノ心情ヲ養フニ最利益アルモノナレバ、地理科ヲ教授スルニハ、必三種ノ事實ヲ結合シテ、理學ノ方法ニ依リ、愛國ノ心情ヲ養成スルコトヲ勉メザルベカラズ、理學ノ方法トハ歸納法ヲ云フ、乃地理上數多ノ事實ヲ收メテ、其ノ間普關ノ源因、結果ノ關係ヲ概括シテ、遂ニ愛國ノ精神ヲ喚發セシムル是レナリ、故ニ教師ハ其ノ教授ニ際シ、暗ニ之レニ順合スルノ方法ヲ施サザルベ

カラズ、乃一事實ヲ教フル毎ニ、必之レト同一ノ因果ノ關係ヲ有スル他ノ事實ヲ以テ復習シ、相互ノ觀念ヲ鞏固ナラシムルノミナラズ、後ニ歸納的ニ普通ノ因果ヲ發見スルノ方法ヲ執ラザルベカラズ。

日本國地理教授法

日本國地理ヲ授ケンニハ、先ツ位置、形狀、區畫、地勢等自然ニ關スルモノヲ先ニシ、都邑、名勝、生業、物産、交通等政治上ニ關スルモノヲ後ニスベシ、是レ自然ノ狀勢ハ、人ノ此ノ世ニ生息スル關係ヨリ生ズル人意ノ境界、及び複雜ナル狀況ニ比スレバ、其ノ事明瞭ニシテ理解シ易クレバナリ、殊ニ全國地理ヲ教授スルニハ、其ノ以前ニ於テ既收得シタル山岳、河湖、港灣等ノ觀念ヲ整然タル順序ニ纏メテ、全体ノ系統ヲ立テ之レニ政治上ニ關スル皮肉ヲ附シテ授クルモノナレバ、自然ニ關スル事件ヨリ始ムルヲ便利ナリトス、故ニ左ニ此ノ順序ヲ以テ教授ノ方法ヲ述ベントス。

(一) 本邦ノ位置及ビ形狀 本邦全体ノ位置、及ビ形狀、ヨリ始メテ、各島ノ位

置、形狀、及ビ名稱ニ移リ、終ニ其ノ境界ニ及ブベシ。

先ツ善良ナル地圖ヲ示シテ、各生ニ本邦ノ方位、形狀ヲ熟知セシメ、地圖全体ノ方位ヨリ問答ヲ起シ、本邦ハ何レノ方位ヨリ何レノ方位ニ延長スルヤ、幾個ノ大島ヨリ成レルヤ、各島ノ名ハ如何、又各島ノ連續セル、全体ノ形狀ハ如何、四境ハ何ヲ以テ圍ムヤヲ知了セシム。

之レヲ知了セシムルニハ、島嶼ノ觀念ヲ基トシ、且其ノ方位ハ單ニ地圖上ノ方位ニ止メズシテ、生徒各自ヨリ何レニ當ル等ノコトニ意ヲ注ガシメ、其ノ方位ヲ實際ニ就テ明瞭ニ知ラシムベシ、猶一步ヲ進テハ、各島ノ名稱ヨリ其ノ位置ヲ知了セシメ、各島相互ノ位置ノ關係ヨリ形狀ニ至リ、之レヲ既得ノ事物ニ擬シテ覺知セシム、然後此等ヲ再合一連結シテ全体ノ形狀ニ復シテ、本邦ノ位置ハ東北ヨリ西南ニ亘リ、三連ノ大島ヨリ成リテ弓形ヲ爲シ、其ノ周圍ニ大小ノ諸島ヲ有スルコトヲ名狀セシメ、次ニ四境ノ海名ヲ教エ、且之レヲ隔テ、大陸ト相對スル關係ノ大略ヲ説明スベシ、斯ク問答シタル事實ハ、一事項ヲ終ル毎ニ取纏メテ、教師之レヲ補足連結シ、一段ノ簡易ナル談話トナシテ、名狀的ニ之レヲ授ケ、以テ其ノ觀念ヲ明瞭ニ想起セシメ、最後ニ教科書ニ就テ練習スベシ、(以下總テ做之)

(二)區劃 先ツ天然ノ區劃ヨリ移テ政治上ノ區劃ニ入ルベシ、乃本邦四大島ノ位置、形狀ヲ想起セシメ、此ク天然ノ區別アルニ係ラズ、人爲上便利ノタメ、全体ヲ大別シ幾内、及ビ八道トナスコトヲ説キ、地圖ニ就テ其ノ位置及ビ境域ヲ示シ、生徒居住ノ地ハ何道ノ内ニ在テ、其ノ道ノ大サハ曾テ學習セシ我が縣ノ幾倍アリ、故ニ此ノ學校ヨリ某所ニ至ル迄ノ距離、生徒ノ知レル所ノ距離ヲ云フナリ、以テ一日ニ歩スルトセバ、某道ノ一端ヨリ他端ニ至ルニ幾日ヲ要スルコトヲ、生徒ト共ニ計算シテ、以テ其ノ大サヲ比較上ヨリ略知セシムベシ、既一道ノ大サヲ知ラバ、之レヨリ其ノ境界ヲ追ヒ、各道ニ移テ漸次前ノ如ク其ノ大サト名稱トヲ教エ、著明ナル事實ヲ併セ説キ、以テ聯合法ニ依リ之レヲ記憶セシム、凡テ各道ノ廣袤、形狀等ハ、前ニ教授シタル既知ノモノト比較想像セシメ、以テ之レヲ識了スルノ習慣ヲ得セシムベシ、而シテ既幾内、八道ノ區劃ヲ覺知スルニ於テハ、各道ノ國數及ビ名稱ヲ授クベシ、然レドモ幾内及ビ八道悉教エタル後ニ再各道ノ國數ヲ教ウルニハアラズ、一道ノ位置、廣袤、形狀ヲ識了セバ、直ニ之レヲ小別シテ幾國トナスコトヲ教エ、其ノ國數ヲ數ヘシメ、各道ノ位置ト其ノ國數トヲ連結シテ、之レニ著明ノ史談ヲ

附シテ簡單明瞭ニ説話スベシ、此クシテ觀念聯合ノ方法ヲ以テ記憶セシメ、然後略表ヲ作り、略圖ヲ製セシムレバ、其ノ記憶ヲ益々鞏固ナラシムルノ利アリトス、而シテ全道ヲ終リタル後、各道ノ國數ヲ合算シ、日本全國ヲ幾内及ビ八道ニ大別シ、又之レヲ八十五國ニ小別スルコトヲ覺知セシム、最後ニ至リ現時ハ國ナル區別アル外、猶一道廳、三府、四十三縣ノ區別アルコトヲ説キ、地圖ト略表トヲ示シテ之レヲ點檢セシメ、問答法ニ依リ巧ニ其ノ練習ヲ爲スベシ、若地理ヲ高等科生徒ノミニ課シ、一度ニシテ稍精細ニ教エントスレバ、各道ノ國數ヨリ其ノ名稱、境界、及ビ各國相互ノ位置ノ關係、之レニ關スル事實等、ヲ詳説スベシ。

凡テ區劃ノ如キハ最注意セザレバ、其ノ教授無味淡白ノ滓渣ノミトナリテ、宛砂ヲ嚼ムニ等キ感アルノミナラズ、隨テ生徒ノ心裡ニ孤立無關係ノ記憶トナリテ入り易キモノナレバ、區劃明瞭ナル地圖ヲ示シ、且教授ノ順序ヲ誤ラザルコトヲ勉メ、豫之レニ關スル事實ヲ撰擇シテ明晰ニ談話シ、一段ノ興味ヲ附シテ生徒ノ眼ト耳ヨリ入ル所ヲ心裡ニ聯合セシメ、決シテ孤立無關係ノ記憶ニ流レザル様注意スベシ。

(三)地勢 地勢ハ山系、水脈ヲ以テ基トス、故ニ山系ヨリ始メ、川流ノ方向ヲ觀察セシメ、分水界線ヲ追跡シテ、以テ其ノ地勢ヲ想像セシムベシ、而シテ此ニ注意ヲ要スルモノアリ、即分水界ノ性質タル、固ヨリ其ノ地ノ高低如何ニ關スルモノナルモ、必シモ高山ヲ以テ分水界ヲ爲スモノト定マリタルニアラザルコト是レナリ、然レドモ殊更單獨ニ之レヲ説明スルモ、却テ生徒ノ理解ヲ亂スノ恐レアレバ、各地ノ分水界ヲ追跡シテ、其ノ實例アルニ際シ之レヲ説明スベシ。

サテ山系、水脈ヲ教授スルニハ、忽然全國ニ就テ之レヲ覺知セシメントセバ、少シク空漠ニ涉リテ、幼者ノ想像ニ適セザルヲ以テ、全國ヲ便宜區分シテ、生徒居住ノ部分ヨリ始ムルヲ可トス、例ヘバ本島ヲ東北部、中央部、及ビ西部トシ、其ノ他ヲ四國、九州、北海道トシ、生徒居住地ヲ中心トシテ、生徒ノ觀察シ得ル高山アラバ、其ノ山系ヨリ始メ、生徒既知ノ川流ニ就キ、地圖上其ノ川源ヲ尋テシメ、以テ想像ノ基本トスベシ、又全國ヲ四大島ニ分テ、本島ヲ三部ニ區分セズシテ、本島ヨリ教授セントセバ、本島ト他島トノ關係、及ビ其ノ位置、形狀ニ就テ既知ノ觀念ヲ誘起シ、生徒居住地ノ山脈ヨリ進ンテ、全島ノ主山系ヲ會得セシムベシ、例ヘバ先ヅ山脈ナルモノ、形狀

ナ問答シ地圖ニハ如何ナル符號ヲ以テ之レヲ表明スルカヲ問ヒ、實例ヲ引テ以テ其ノ問答ヲ確メ、黑板上ニ略圖ヲ描キテ、大紙ニ略圖ヲ描キテ、之ヲ示ス可ナリ、主山系ノ位置方向ヲ教エ、樺太山系ト支那山系或ハ西南山ト云フト本島ノ中央ニ於テ相會シ、其ノ會スル所高山最多キコトヲ覺知セシメ、然後全國地圖ヲ示シテ略圖ト對比シ、比較上主山系ノ位置方向ヲ生徒各自ニ尋究セシムベシ。

既主山系ノ位置及ビ方向ヲ知ルニ於テハ、川流ノ方向ヨリ土地傾斜ノ狀態ヲ推想セシメテ、其ノ地勢ノ大体ヲ會得セシム、乃地圖ニ就テ著明ナル大河ヲ指示シ、此等ノ大河ハ何レニ其ノ川源ヲ有シ、何レノ方位ニ向テ奔流スルヤヲ觀察セシメ、如何ナレバ此ク大河ノ東西ニ分流スルヤ、水ハ如何ナル面ヲ流ル、ヤヲ問答シ、土地全体ノ東西ニ傾斜シテ、中央ハ稍高キコトヲ覺知セシメ、次ニ此ノ如ク川流ヲ反對ノ方向ニ分流セシムル高所ヲ分水界ト云フコトヲ教ウベシ、凡テ此ノ如キモノヲ教ウルニハ、生徒居住地ニ於ケル觀察上ノ實例ト比較連結スルヲ要ス、又河流ノ著大ナルモノハ比較表ヲ與ヘ、之レト對照シテ觀察セシメ、其ノ位置方向ト他川トノ比較ヲ連合セシムルヲ要ス、而シテ最後ニ至リ問答ヲ纏メ、之レ

ナ簡單且明瞭ニ談話シ、猶火山系ノコトヲ説キ、火山ノ影響、乃我が國ニ地震多キコト、及ビ温泉ニ富ムコト等ヲ説明シテ、大体ノ地形ヲ知ラシムルト、共ニ火山ノ影響ニ關スル知識ヲ與フベシ。

又北海道ニアリテハ、蝦夷山系ト、千島帶ト稱スル火山系ト、十字ニ全道ヲ横切テ、川流ヲ四方ニ分流セシムルコト、四國ニアリテハ、四國山系西南ヨリ東北ニ亘テ川流ヲ分流セシメ、九州ニ於テハ、九州山系中央ヲ走テ川流ノ分注スル狀態ヲ觀察セシムルコト、總テ本島ノ例ニ依ルベシ。

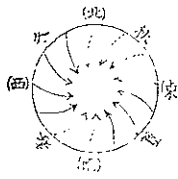
既ニ各島水脈ノ方向ヲ終ラバ、生徒居住地ノ川流ヲ例トシテ、地圖上ニ於テ其ノ川源ヲ探テ數多ノ支流、又ハ谿流ニ分岐スルコト、及ビ其ノ川流ヲ追テ下リ、海ニ注グ有様ヲ覺知セシメ、凡テ河流ハ其ノ上流ニ於テ小流相會シ、流下スルニ從ヒ益支流ヲ合セテ遂ニ放大シ、其ノ海ニ注グ所多クハ港津ヲ爲スコトヲ會得セシム、是レヨリ海岸線ノコトニ説キ及ボシ、先ヅ地圖ニ就テ海岸線ノ方向、及ビ其ノ屈曲ノ多少ヲ觀察セシメ、問答法ニ由テ周圍ノ海名ヲ語ラシメ、何海ニ面スル海岸ニ港灣多クシテ、何海ニ面スル海岸線ハ其ノ屈曲少ナク、從テ港灣ニ乏シキコ

トナ識了セシム、而シテ海岸線ノ概要ヲ識得セバ、全國ヲ四大島ニ分テ、各島ニ就テ岬灣ノ位置名稱ヲ教エ、簡單ナル商業上、及ビ運輸上ノ事項ヲ附説スベシ、蓋我が國近海ノ名稱ハ其ノ數最多ク、單ニ之レヲ教ヘナバ、生徒ノ記憶ニ困ムコト極メテ大ナラン、故ニ航海上ノ談話ヲ爲シ、之レニ連合シテ其ノ位置ト名稱トヲ地圖上ニ就テ覺知セシメ、既得ノ國名、岬灣等ヲ問答シテ、猶之レト連絡ヲ有セシメ、別ニ略表ヲ與ヘテ之レト對照セシメ、以テ記憶セシメンコトヲ要ス、又近海ヲ説クニ至リ、海峽アルトキハ之レヲ説明シ、後ノ海峽ハ之レヲ以テ類推セシムベシ、殊ニ國防上必要ナル海峽ハ、其ノ國防ノコトニ説キ及ボシ、猶砲臺ノコトヲモ説クベシ。

(四)氣候 氣候ノ觀念ヲ與ヘンニハ、先ヅ生徒ノ日常經驗セルコトヨリ端ヲ開クベシ、乃四季ノ氣候ヲ一晝夜ニ比較シ、晝ハ暑クシテ夏ニ等ク、夜ハ寒クシテ冬ニ等ク、朝夕ハ平和ニシテ、春秋ニ等ク、恰一年中ノ氣候ハ、一晝夜ヲ以テ代表シタル如キコトヲ説キテ、四季ノ氣候ノ異ナルヲ覺知セシメ、又冬季生徒居住ノ地ニハ、未積雪ヲ見ザルニ、近傍ノ山頂ハ既白雪ヲ戴クコトヨリ、山頂ハ寒ク平地ハ暖

カナル觀念ヲ與ヘ、凡テ山脈所在ノ高地ハ、平原低地ヨリ稍寒キコトヲ説明シ、地圖ニ就テ山脈ノ方向、及ビ位置ヲ復習的ニ問答シ、既知ノ觀念ヲ誘起シテ、土地ニ依リ氣候ヲ異ニスルコトヲ推知セシメ、起伏地圖、又ハ高低地圖ニ依テ、猶明瞭ニ隨所高低ノ差アルコト、及ビ土地ハ南北ノ方位ニ隔タルニ隨テ、一般ニ氣候ヲ異ニスルコトヲ教エ、氣候異ナレバ、之レニ接息スル動物ト植物トハ、其ニ自異ナルモノタルヲ説キ、寫真若クハ繪畫ヲ示シテ、其ノ動植物ノ異ナル有様ヲ證スベシ、此クシテ後我ガ國南北兩端ノ地ハ、氣候大ニ異ナリ、東北ノ尖端ナル千島ノ如キハ、夏短クシテ年中氷雪ノ中ニアルモ、西南ノ琉球若クハ南方ニ位スル小笠原島ノ如キハ、殆ンド冬無クシテ雪ヲ見ザルコトヲ、土地方位ノ比較ニ依テ説明シ、次ニ中央四大島、其ノ他ノ屬島ハ、四季ノ序正シクシテ寒暖其ノ宜シキヲ得タルハ、全海流アルニ依ルコトヨリ、進テ海流ノコトニ及ボシ、海流ニ寒温ノ二流アリテ、寒流ハ北ヨリ來ル、其ノ一ヲ親潮ト稱シ、又千島海流トモ云フ、北海道ノ東南岸ト本島ノ東岸ヲ南流シテ、金華山ノ東南ニ至リ、暖流ト相會ス、其ノ二ヲりまん海流ト云ヒ、滿州ノ海岸ニ沿テ西南ニ流レ、而シテ暖流ハ乃日本海流ニシテ、本流ハ九

州、四國、本島ノ南岸ニ沿テ東北ニ流レ、下總ノ犬吠崎ヲ經テ海岸ヲ遠ザカリ、其ノ一部ハ別レテ八丈島ノ北ヲ流ル、之レヲ黒瀬川ト稱シ、其ノ支流ハ肥前五島ノ西ヨリ對馬島ノ東方ニ沿テ日本海ニ入り、我ガ海岸ヲ流レテ東北ニ注グ、之レヲ對島海流ト稱スルコトヲ、海流ノ行路ヲ表明セル地圖ニ就テ觀察知了セシメ、暖流ト寒流ノ相會スル所ハ、常ニ霧多キコト、及び冬季西北ノ風吹キテ陸地ノ氣温ヲ低下スルモ、黒潮ノ暖流アルニ依テ氣候ヲ調和シ、温暖ナラシムルコトヲ説明スベシ、若適當ノ地圖無キニ於テハ、教師自豫地圖ヲ描キテ之レヲ示スベシ、蓋教師ハ外郭線ノミヲ以テ描キ置キ、生徒ニ教授シタル事件ヲ生徒ノ會得スルニ隨ヒ、其ノ位置ヲ指示セシメテ、之レニ描キ添ユルヲ以テ最効アリトス、次ニ風雨ノ大要ヲ教ウ、乃冬季ハ西北風、及び西風多ク、春ハ西南風トナリ、夏ニ至テ南風多ク、秋ハ東風ヨリ北風トナルコトヲ教エ、左ノ如キ圖ヲ示シテ之レヲ記憶セシムベシ。



日本國全体ニ行ハル、四季ノ風向ハ時辰儀ノ針ト反對ノ方向ニ廻轉變更スルナリ。

然後九州、四國、及び本島ノ西南岸ハ、直接ニ西南ノ風ヲ受クルヲ以テ、夏季雨多ク、六月ノ頃殊ニ甚シ、之レヲ通常梅雨ト云フ、又本島ノ北岸ハ、西北風ヲ受ケ、冬季雨雪多ク、其ノ東岸及び北海道ノ東南岸ハ、西南風又ハ西北風ヲ直接ニ受クルコト無ク、且親潮ノ寒流近接シテ流走スル故ニ概シテ降雨少ナシ、而シテ瀬戸内海ノ海岸ニアリテハ、山脈四方ヲ圍ムヲ以テ亦降雨少ナク、隨テ本邦第一ノ製鹽場タルコトヲ、風向ヲ示シタル地圖ニ就テ説明シ、觀念聯合ノ律ニ依テ、之レヲ生徒ノ腦裡ニ記住セシメ、最後ニ暴風ノコトヲ説キ、例年八九月ノ頃、支那地方ヨリ暴風吹キ來ルヲ以テ、稻花ニ禍スルコト甚シク、之レヲ農家ノ厄日ト稱シ、農民皆其ノ風ヲ憂フルコトヲ説明スベシ。

(五) 都邑及ビ名勝 都邑ハ地圖ヲ以テ其ノ位置等ヲ知了セシムベシト雖、單ニ名狀シテ之レヲ地圖上ノ位置ト連結セシムルノミニテハ、未以テ無關係ノ孤立記憶ニ屬スルヲ以テ、之レヲ教授スルノ方法タル頗困難ナルハ論ヲ埃タザルナリ、是レ蓋記憶ニ委スベキ事項多キヲ占ムレバナリ、依テ便宜ノ爲、全國ヲ區分シテ本島ヲ北、西、中央ノ三部トシ、之レニ北海道、四國、九州ノ三部ヲ加ヘテ六大部

トナシ、生徒居住地ノ部分ヨリ始メ、一都邑ヲ教ウルニハ、之レニ關スル歴史上ノ事實及ビ工業、商業等ノ事項ヲ交ヘ、殊ニ生徒ノ日常目撃スル所ノ商品、又ハ工藝品ノコトヨリ入りテ、成ルベク連絡ヲ人工上ノ事件ニ求メ、以テ都邑ノ廣袤、人口、及ビ繁盛如何ノ狀況ニ及ブベシ、而シテ人口ハ千、又ハ萬位ヲ以テ其ノ大數ヲ記憶セシメ、猶詳細ナルハ別ニ表ヲ製シテ之レヲ與ヘ、常ニ教授ノ事項ト對照シテ覺知セシムルヲ可トス、且都邑ヲ教授スルノ際、其ノ近傍ノ勝地ヲ之レニ附加シテ教エ、必其ノ連絡ヲ絶ツベカラズ、此ノ如ク事件ノ連絡ト土地ノ連絡トヲ以テ、整然タル順序ヲ立テ、其ノ主位ヲ占ムベキ事項ヲ中心トシテ、之レニ關係ノ事實ヲ蠲集シテ教エ、一都邑ヲ終ルゴトニ名狀的ニ復習シテ、然後近傍ノ地ノ都邑ニ移リ、教師先導者トナリテ生徒ト共ニ想像旅行ヲ地圖上ニ行ヒ、殆ンド實地ノ旅行ヲ爲スト等ク、感動セシムルヲ以テ益アリトス、今左ニ其表ノ例ヲ示ス。

地

著名ナル諸山周圍ヲ繞リ圍ムコト
形 風景明媚高崇ナルコト
名勝ノ地多キコト

京 都

地 歴

千有餘年ノ帝都タリシコト
史 舊跡極メテ多キコト
有名ナル寺院多キコト
西陣織物ノコト
友仙染模様ノコト
清水焼陶器ノコト
伏見 奈良
宇治 天橋立等
舞鶴 宮津等
近傍諸名勝
平衍ニシテ周圍ニ諸山ヲ見ザルコト
交通ノ便ニ富ミ諸國ノ貨物輻湊スルコト
小金井 玉川 井の頭等ノ名勝地アルコト
三百有餘年徳川氏覇府ノ地タリシコト
史 舊跡ノコト

東 京

〔諸官衙ノコト〕
 商賣繁榮ノ狀況
 商工業 文明機器製造ノコト
 海苔製法ノコト
 府中 八王寺 館山港 木更津
 近傍名邑 千葉 銚子 水戸 浦和 大宮
 熊谷等ノ位置

都 邑 比 較 表 ノ 例

名 稱	位 置		生 業	物 産	輸 出 品 共 出	交 通	歴 史 上 ノ 事 實 等
	陸 前	水 前					
仙 臺	六〇七五四	二二六三八	商 工	絹織物、生糸	東北鐵道線	元伊達氏六十二萬五千餘石ノ城下	
				埋木細工、漆器、	陸羽街道	ニシテ其ノ城址ハ今陸軍省ノ所管	
				銅、鐵、海産物、	茨ノ濱航路	トナリ第二師團兵營ヲ置ク	

(六) 生業及ビ物産 生業ノ事項ヲ教授スルニハ、全國一般ノ地勢、水脈、氣候等

ニ就テ既知ノ觀念ヲ誘起シ、生徒居住地ノ地勢等ト比較シテ、氣候ノ中和ナルト水脈ニ富ムコトヨリ、田畑等ニ説キ及ボシ、我が邦人民ハ農ヲ以テ第一ノ生業トス、故ニ農ヲ以テ業トスル者ハ、他ノ業ヲ執ルモノヨリ、其ノ教多キコトヲ生徒居住地ノ實例ニ照シテ之レヲ證シ、農家ノ主産タル米ハ、北海道ノ大部ヲ除キ、何ノ地ニモ生育スルコトヲ覺知セシム、次ニ農家ノ副産物タル蠶ハ、上野、信濃、岩代、武藏、甲斐ニ最盛ニシテ、製茶ハ遠江、伊勢、山城、駿河等ニ盛ナルコト、綿花ハ尾張、三河、攝津、河内ニ多ク、麻ハ下野、北海道ニ多ク産シ、藍ハ阿波ノ名産トシ、砂糖ハ讃岐、大隅ニ盛ニシテ、煙草ハ大隅ノ國府ニ佳名ヲ專有セラル、等ヲ説明シ、又牧畜業ニ移リテ、汝等平常見ルトコロノ牛ハ何ヲ食スルヤ、馬ハ如何等ヨリ、牛ノ産地ニ有名ナルハ、但馬、陸中、安房、肥前、馬ハ磐城ノ三春、陸前、及ビ陸中ノ南部、薩摩ニシテ、豚ハ千葉、沖繩ニ飼育シ、羊ハ下總、及ビ薩摩ノ南島ニ牧シ、養鶏ハ上總、石見、備前等ニ多キコトヲ地圖ニ就テ教ユ、次ニ水産業、及ビ工業、商業ノ大要ヲ談話シ、食品等ニ就テ水産ノ世界ニ冠タルコト、及ビ織物、又ハ器物ニ就テ工業ノ有名地ヲ教ユ、物産ノ輸出、及ビ外品ノ輸入等主要ナルモノヲ知ラシメ、後略表ニ就テ之レヲ確

ムベシ。
 凡テ生徒ノ日常目撃シ又ハ手ニ觸ル、モノヲ起點トシテ、漸次説キ廣メテ、物産ハ其ノ重ナル産地ト品種トヲ連合シ、商業ハ内國商業ノ繁盛ナル地ト、其ノ賣品ノ主タルモノトヲ結合シ、遂ニ外國商業ニ説キ及ボシテ、其ノ繁盛地ト主タル輸出入品ヲ舉ゲテ之レヲ知了セシメ、最後ニ亦之レヲ生徒居住地ノモノニ結ンデ熟知セシムベシ。

(七)交通 交通ノコトヲ説クニハ、道路、鐵道、航路、郵便、電信ト容易ニ生徒ノ實驗シ得ルモノヨリ始メテ、漸次想像的ノモノニ及ボスベシ、故ニ生徒ノ親ク見ル所ノ道路ヲ以テ起點トシ、之レヲ地圖上表明スルトコロノモノニ移シ、其ノ符號ヲ追フテ經過スル土地及ビ都邑ヲ問答シ、終ニ著名ノ道路ハ皆東京ニ輻湊スルヲ覺知セシメ、東京ハ道路ノ首點ナルコトヲ知ルニ於テハ、是ヨリ各道ニ通ズル著名ノ街道筋ヲ追フテ、其ノ行路、及ビ國名、都邑ト連合シテ之ヲ記憶セシム、乃先ヅ東京ヨリ京都ニ通ズル東海道、百三十三里及ビ中仙道、百三十七里次ニ陸羽街道、百九十里甲州街道、水戸街道、陸前濱街道、北陸街道、中國街道、山陰街道、山田路、大和路、伊勢路、等ニ

及ブベシ、然後鐵道ニ移リ、道路同様ノ方法ニテ之レヲ會得セシメ、其ノ設置ノ年月ト官私有ノ區別トニ説キ及ボシ、次ニ航路、郵便、電信ノ線路ヲ説明シ、凡テ實用ニ適切ノ知識トナサンコトニ注意シ、實際ヲ離レテ唯地圖上ニ於ケル架空ノモノトナラザルコトヲ勉ムベシ、故ニ實際ノコトヲ交へ、之レニ對比シテ其ノ想像ヲ明確ナラシメ、又交通ノ便否ニ依テ、人民ノ貧富ヲ生ズル所以ヲ説キ、其ノ幸不幸ノ状態ヲ談話シテ、自奮勵スルノ念ヲ喚發スベシ、

(八)内治上ノ事項 内治上ノコトヲ説クニハ、教育ノコトヨリ始ムベシ、教育ノコトハ生徒既自其ノ一部ニ居リ、親ク之ヲ受ケツ、アルヲ以テ、理解スルコト容易ナリ、乃汝等ノ如ク凡テ國內一般ニ年齢滿六歳ヨリ十四歳マデハ、男女共ニ小學校ニ在テ、教育ヲ受クルノ制ナルコトヲ、實際其ノ生徒ノ例ニ比較シテ理解セシメ、一家ノ不幸又ハ家計不如意ヨリ學齡ニシテ未學ニ就カザル者全國ニ多ク、殆ンド就學兒童ノ數ニ倍スルノ不幸ヲ説キ、此等ノ兒童ハ將來其ノ身ノ不自由、及ビ社會一般ノ不幸ナルコトヨリ、汝等幸ニ日々學校ニ來リ、充分教育ヲ受クルノ幸福ナルコトヲ談話シ、益、奮勵ノ志氣ヲ誘起シ、且初等教育ノコトヲ會得セ

シメ、是レヨリ諸學校ノ種類ヲ舉ゲテ其ノ性質、及ビ程度等ヲ識了セシムベシ。
 次ニ兵制ノコトニ移リ、日本帝國ノ臣民タル者上下貴賤ノ別ナク、年齢滿十七歳
 ヲリ滿四十歳マデノ男子ハ總テ兵役ニ服シ、護國ノ義務アルコトヲ説キ、汝等モ
 其ノ年齢ニ達スレバ、必日本臣民タルノ義務トシテ兵役ニ服スベキコトヨリ、兵
 ハ國ノ干城タルコト、及ビ男子トシテ之レニ服役スルハ、極メテ名譽ナルコトヲ
 理解セシメ、兵役ニ常備、後備、國民兵ノ區別アルコトヲ説キ、古來歴史上ノ談話ヲ
 爲シテ興味ヲ添ヘ、然後地圖ニ就テ陸軍ハ全國ニ六師團アルコト、及ビ別ニ近衛
 憲兵、北海道屯田兵アルコトヲ教ニ、略表ヲ與ヘテ其ノ配置ノ兵數ヨリ全國總兵
 數ヲ參照セシメ、次ニ海軍ニ移テ、全國ノ海岸、及ビ海面ヲ五海軍區ニ分ツコト、及
 ビ其ノ兵數、軍艦數等ヲ知ラシメ、我が國ハ四境海ヲ以テ圍ム、故ニ國防上海軍ノ
 必要ナルコト、陸軍ニ勝ル所以ヲ地圖ニ就テ知了セシムベシ。
 次ニ政治ノコトヲ説クニハ、先ヅ生徒ノ親ク知ルトコロノ町村ノ政務ヨリ始メ
 テ、地方行政ノコトヲ説キ、進テ立法行政、兩部ノ區別ニ及ボシ、立法部ハ村町會ヨ
 リ府縣會ニ連絡シテ國會ヲ説キ、遂ニ我が國ノ萬世一系ナル 帝室ノコトヨリ、

憲法ヲ發布セテレタルコト、及ビ是レヨリ立憲帝國トナリシコトヲ總テ一々實
 例ヲ引テ説明シ、歴史談ヲ交ヘテ充分確實ナル觀念ヲ得セシムベシ。
 次ニ土地及ビ財政ノ大要ヲ知ラシム、乃全國ノ面積ノ大數ヲ舉ゲテ、其ノ内ニ官
 有ニ屬スルモノト、民有ニ屬スルモノトノ區別アルコトヲ、近傍ノ例ニ就テ説明
 シ、猶民有田畑、山林、原野等ノ地價ナルモノ、性質ヨリ、國庫ノ歲入、地方稅、村費ノ
 區別ヲ説キ、貨幣發行ノコト、及ビ國債ノコト、銀行ノ性質、貨幣紙幣ノ製造所等ヲ
 談話シ、其ノ大要ヲ知了セシム。
 凡テ此ノ項ハ政治的事實ナルヲ以テ、生徒ノ記憶力ニ訴ヘシムルモノ多キヲ占
 ムル故ニ、兎角文字上ノ記憶、又ハ言語上ノ得識ニ流レ易キモノナレバ、深ク之レ
 ニ注意シ、實際生徒ノ見聞セルモノニ根據ヲ取り、連合ノ律ニ隨テ其ノ意義概要
 ヲ識得セシメ、決シテ空漠タル一條ノ談話ニ止マラシムベカラズ、殊ニ數字上ノ
 モノハ唯其ノ大數ニ止メ、詳細ナルハ別ニ表ヲ示シテ、常ニ之レト對照セシムル
 ナ可トス。

(九) 外交上ノ事項

前既教授シテ生徒ノ腦裡ニ記憶シタル、五港ノ位置ヲ地

圖ニ就キ問答シテ後、其ノ情况ヲ語ラシメ、此ノ所ハ總テ外國トノ貿易ヲナス所ナルコトヨリ、本邦ヨリ輸出スル重ナル物産ヲ問ヒ、又外國品ニシテ生徒熟知セラル所ノモノヲ示シ、其ノ外國品タルコトノ觀念ヲ喚起シ、我が邦ノ物産ヲ彼レニ與ヘ、彼レノ品物ヲ我ニ取ル、即貿易ナルコトヲ教エテ、貿易ノ意義ヲ覺知セシメ、然後我が邦ニテハ未外國人ニ内地通商ヲ許サザルヲ以テ、總テ其ノ貿易ハ開港場、及ビ開市場ニ於テ行フコトヲ説キ、適宜ノ例ヲ引テ之ヲ理解セシメ、且開港場ハ前ニ汝等ガ學ビシトコロノ五港ノ外ニ、大阪ノ富島アルコト、及ビ開市場ハ東京築地ナルコト、猶別ニ特別輸出港アリテ、直ニ外國ニ物産ヲ輸出スルコト等圖ニ就テ位置ヲ示シ、其ノ概念ヲ得セシムベシ、凡テ貿易ノ情况ヲ説クニハ、生徒ノ親ク知レル内地ノ商業ニ比較シテ、唯我が國人ト外國人ト貿易スルノ差アルコトヨリ入ルヲ可トス、蓋生徒ノ想像ニ入り易ケレバナリ。

次ニ其ノ貿易通商ヲナス條約國ノ名稱ヲ舉ゲ、我輸出物ノ多ク到ル所ハ何國ニシテ、我が國ニ多ク輸入スルハ何國ノ物品タルコトヲ教ニ、適切ノ例ヲ示シテ之レヲ証シ、然後現行條約ノコトニ移リ、前ニ陳ルガ如キ我が國ト通商貿易スル諸

外國ヲ條約國ト云フコトヨリ、條約國トハ互ニ對等ノ交際ヲ爲シ、其ノ國々ノ都府ニ公使ヲ派遣シ、又開港場ニハ領事ナルモノヲ置キテ、國交際上ノ事務ヲ主トラシム、乃我が東京ニ諸外國ノ公使館アリ、又横濱等ニ領事廳アルハ、其ノ爲ナルコトヲ説明シ、我が國ニテハ未我が法律ヲ以テ直ニ外國人ノ犯罪ヲ罰スル能ハザルコト、及ビ外國人ハ居留地ト定メタル所ノ外ニ住シ、不動産、公債證書、銀行會社ノ株主トナルコトヲ許サザル等ヲ、例話ヲ設ケテ説明シ、其ノ概要ヲ理解セシ後、教科書ニ就テ復習的ニ之レヲ讀マシムルハ前ニ異ナルヲナシ。

以上日本國地理全体ノ概要ヲ教授シ終リタル後ハ、種々實際上ノコトニ就テ問ヲ設ケ、地圖上ニ就テ之レヲ考察明答セシメ、一ハ以テ教授セシ事項ノ復習トナシ、一ハ以テ實際上ニ於ケル地理ノ知識ノ有無ト、心方ノ活用トヲ知ルノ方便トナスベシ。

(十)地球ノ形狀及ビ水陸ノ別 先ヅ地球ノ形狀ニ關スル昔日ノ信仰說ノ大意ヲ説話シ、尋テ其ノ眞形ノ發見セラレタルコトヲ説キ、生徒ヲシテ其ノ確實ナル證據ヲ求メントスルノ念ヲ起サシメ、然後海岸ニ於テ船舶ノ出入スル際ニ就

テ、船ノ海岸ヲ離レテ遠ク海上ニ出ヅルトキハ、船体先ヅ浪ニ隠レ、帆檣ノミ見ルコトヲ得ルニ至リ、終ニ船ノ影ヲ失フコトヲ説キ、又船舶ニ乗リテ海港ニ近ヅクハ、先ヅ陸地ノ高山ヲ見、漸クニシテ山腹ヲ見ルニ至ル、而シテ猶近ヅクニ随テ終ニ山麓ヲ見、又人家ヲ見ルニ至ルコト等ヲ談話シ、黑板上ニ弧線ヲ描キ、其ノ状態ヲ圖シテ之レヲ示シ、然後何故ニ船舶ノ陸地ヲ遠ザカルニ随テ、船体ノ漸ク浪ニ沈ム如ク消失スルヤ、平面上ニ於テ此ノ如キコトアルベキヤ否ヲ問答シ、生徒ノ思考ヲ誘ヒテ、終ニ地球面ハ弧形ヲ爲ス、故ニ地球全体ノ形状ハ圓形ナルコトヲ覺知セシメ、且圓体面ニ於テハ皆同一ノ現象アルコトヲ、種々ノ實例ニ依テ證シ、後地球儀ヲ示シテ其ノ地球ヲ代表セルモノタルヲ説キ、以テ地球ハ圓ク橙ノ如クナルコトヲ識了セシムベシ。

次ニ地球表面ノコトニ移リ、汝等曾テ學ビタル日本地圖ニ於テ、日本國ノ周圍ヲ繞ルモノハ何ナリシヲ知リタルヤ、日本地圖ハ地球ノ一部ノ表面ヲ顯ハシタルモノナリトノコトヨリ、進テ地球ノ表面ハ陸ト水トヨリ成ルコトヲ知ラシメ、水面ハ陸面ノ三倍ニシテ、陸面ヲ六大洲ニ分テ、水面ヲ五大洋ニ分ツコトヲ地圖ニ

就テ説明シ、其ノ區劃及ビ名稱ヲ教エ、猶地球儀ニ就テ之レヲ確メ、水陸ノ區別ヲ明瞭ニ知了セシムベシ。

次ニ地圖ト地球儀ノ區別ニ就テ説明シ、此ノ地球儀ハ吾人ノ居住スル地球ノ全体ト、其ノ表面ノ有様トヲ示ス爲ニ製シタルモノナリ、又地球ハ地球表面ノ全部、或ハ一部ヲ示ス爲、平面ニ描キタルモノナルコトヲ説キ、地球ニ半球圖トめるけいどる漸長緯度圖トノ區別アルコトヲ説明シ、各其ノ圖ヲ示シテ十分差異ノ點ヲ指示スベシ、然後生徒ノ知レルトコロノ景色畫若生徒ノ知レル所ノ畫無キト地圖トナ示シ、繪畫ハ側面ヨリ見タル所ヲ寫シタルモノナルモ、地圖ハ上ヨリ見下シタル有様ヲ寫シタルモノナレバ、同所ニシテ其寫シ方ニ兩様ノ別アルコトヲ談話シテ、其ノ區別ヲ知ラシメ、地圖及ビ地球儀ハ總テ上ヲ北トスルモ、繪畫ハ實際ノ儘ナルコトヲ説クベシ。

次ニ地平面及ビ方位ノコトニ移リ、先ヅ生徒ニ環線トハ如何、及ビ環線ノ面トハ何ヲ云フヤ等ヲ問答シ、吾人ハ四方何レヲ見ルモ、陸地又ハ水面ト天ト相接スルガ如クニ見得ルナラズヤ、然ルニ若吾人ノ周圍ノ地面ト天ト相接スル所ヲ輪走

シテ環線ヲ描キナバ、其ノ環線ノ面トハ何レヲ云フヤ等ヲ思考セシメ、黑板上ニ之レヲ描キ示スカ、又ハ適當ノ錐形ヲ示シテ十分思考ヲ費サシメ、後吾人ノ立ツ所ヨリ天地相接スルガ如ク見ユル所ニ、假リニ線ヲ引クトセバ、此ノ線ヲ稱シテ地平線ト云ヒ、此ノ地平線ヲ包括セル地面ヲ稱シテ地平面ト云フコトヲ教エ、然後汝等朝ニ太陽ノ出ヅル方位ヲ知レルヤ、又夕ニ太陽ノ没スルハ何レノ方位ナルヤヲ問ヒ、夜明クレバ、太陽東方ノ地平面上ニ出デ、又日暮ニ至レバ、太陽西方ノ地平面下ニ没ス、故ニ太陽地平面上ニアレバ、吾人ハ明ルクシテ諸物ヲ觀察シ得ルモ、太陽地平面下ニ入レバ、暗クシテ燈火ヲ用井ザレバ、書籍ノ如キモ讀ム能ハザルコトヲ説キ、又日中大陽ノ在ル方ヲ真南ト云ヒ、其ノ反對ノ方ヲ正北ト云フ、通常磁針ヲ以テ北ノ方位ヲ定ムルモ、磁針ハ必正北ヲ指スモノニアラザルコト、及ビ太陽ノ出沒スル所ヒ亦常ニ同一ナラズ、故ニ之レニ依テ正東、正西ノ方位ヲ精密ニ定ムル能ハザルコトヲ説明シ、地球儀ヲ以テ之レヲ證シ、又ハ繪畫ヲ示シテ十分生徒ノ理性ニ訴ヘテ了解セシムベシ。

次ニ地球儀ヲ示シ、兩極點ヲ指シテ、此ノ如ク地球表面ノ最北ノ一點ヲ北極ト云

ヒ、最南ノ一點ヲ南極ト云フ、何レノ國ニテモ正北ヲ指シテ、進メバ皆北極ニ達シ、又正南ヲ指シテ進メバ悉ク南極ニ達スルコトヲ教エ、兩極間ノ中央ニ於テ、東西ニ亘ル一線ヲ赤道ト云フ、赤道ノ近傍ハ周年炎熱燒クガ如キ氣候ナルヲ以テ、之レヲ熱帶ト稱シ、兩極近傍ハ寒氣凜烈ナルヲ以テ、之レヲ寒帶ト稱シ、兩帶ノ中間ハ寒熱相半スルヲ以テ、之レヲ溫帶ト云フ、乃之レヲ我一周年ノ氣候ニ比較スレバ、冬ハ寒帶ニ等ク、夏ハ熱帶ニ似テ、春秋ハ溫帶ニ相當スルガ如シ、唯寒熱各酷烈ナルコト、我一周年ノ氣候ノ比ニアラザルノミ、而シテ地球ハ南北兩半ニ分レ、各寒溫二帶アリ、之レニ中央ノ熱帶ヲ加ヘテ、地球ノ五帶ト云フコトヲ地球儀ニ就キ、又之レヲ地圖ニ移シテ懇切ニ教ウベシ。

次ニ經緯度線ヲ教ウ、乃先ヅ地球儀、又ハ半球圖ヲ示シ、地球ノ表面ニ縱横ノ線ヲ引キ、地球上各地ノ位置ヲ定ムルノ便トナスコトヨリ、北極ヨリ南極ニ通シ、赤道ト直角ニ引キタル線ヲ經度線ト稱シ、又子午線トモ云フ、而シテ赤道ト平行ニ引キタル線ヲ緯度線、又ハ平行線ト云フ、然レドモ實際ニ地球面上此ノ如キ線アルニアラズ、各國各地ノ位置ヲ定ムルタメ、想像上ニ設ケタル線ヲシテ、此ノ如キ地

圖ヲ描クニモ、此ノ經緯度線無キニ於テハ、何レノ所ニ我ガ日本國ヲ描クベキヤヲ定ムル能ハザルコトヲ説キ、經緯度線ノ性質ヲ知ラシメ、經度ヲ數フルニハ、大抵英國よりいんゐつち天文臺ノ中心ヲ經ル子午線ヲ本初子午線トシテ東西ニ數ヘ、我ガ邦ハ東經百三十五度ノ子午線ヲ一般ノ標準時トスルコト、及び緯度ハ赤道ヲ基トシテ南北ニ數フルコトヲ説明スベシ。

(十一) 地球ノ運動

先ヅ地球儀ヲ示シテ、地球ハ恰此ノ如ク其ノ軸ニヨリテ自轉スルコトヲ説キ、昔日ハ日月星辰皆地球ヲ中心トシテ、其ノ周圍ヲ一日ニ一回轉行セルモノト信ジタリ、何故ニ斯ク信シタルヤヲ問答シテ、各其ノ考フルトコロヲ語ラシメ、思考ヲ日常親ク見ルトコロノ情況ニ向ハシメ、其ノ如何ナル故ナルヲ知ラントスルノ念ヲ誘起シ、太陽ハ東方ニ出テ西方ニ沒スルヲ見レバ、恰モ大陽ハ地球ノ周圍ヲ回轉スルガ如キ觀アルモ、今日ニ至テハ其ノ然ラザル所以ヲ發見シタリ、乃自運動シツ、周圍ノ物体ヲ見レバ、自己ノ運動スルヲ覺ヘズシテ、周圍ノ物体皆反對ノ方向ニ運行スルヲ覺ユルガ如シ、例ヘバ汽車ニ乘テ周圍ヲ見レバ、山又山ハ我ニ向テ進ミ來ルガ如ク、又舟ニ乘テ河水ヲ下レバ、兩岸ノ人

家ハ我ト相對シテ進ムヲ覺ルガ如シ、是レ昔日ノ人、日月我ガ地球ノ周圍ヲ回轉スルト信シタル所以ナルコトヲ説明シ、實例ヲ以テ之レヲ證スベシ、次ニ問答法ニ依テ、地球自轉ノ方向ハ如何、若西方ニ向テ自轉セバ、太陽ハ何レヨリ出ツベキヤ、一回自轉スルニ幾何時ヲ要スルヤ等ヲ試ミ、地球儀ヲ自轉シテ、其ノ有様ヲ示シ、生徒ニ思考セシム、然後生徒ノ思考ヲ得タルコトヲ纏メテ、順序ヲ立テ之レヲ補足シテ、簡明ニ口授談話スベシ。

既地球ノ自轉ヲ會得スルニ於テハ、地球ノ公轉ニ移テ之レヲ説明スベシ、凡テ此等ノ事項ハ天体ニ關スルモノナルヲ以テ、其ノ説明ハ單ニ口頭ノミヲ以テ足レリトセズ、必適當ノ繪畫ヲ示シテ之レヲ説キ、或ハ又幻燈畫ヲ用ヰテ其ノ狀態ヲ實際ニ視察セシメ、以テ明確ナル想像ニ訴ヘシメザルベカラズ、故ニ餘リ細密ニ涉ラズ、唯其ノ大要ヲ摘テ説明スベシ。

(十二) 晝夜四季ノ別

既自轉公轉ノ有様ヲ説明シテ、其ノ眞狀ノ大要ヲ知悉スルニ於テハ、地球儀ノ斜ニ立ツコトヲ指示シテ、地球ハ其ノ軸常ニ斜立スルヲ以テ、其ノ公轉ヲナスニ當リ、地球表面ノ各部分、太陽ニ對スル位置ニ變化ヲ生ズ

ル所以ヲ黑板上ニ描キテ説明シ、且太陽ニ對スル面ノ變ズルニ隨テ、氣候ニ四季ノ別ヲ生ズルハ、一周年中或時ハ太陽ノ光線ヲ正直ニ受ケ、或ル時ハ斜ニ受クルノ差アルニ依ルコトヲ教ユ、次ニ晝夜ニ長短ノ生ズルハ、四季太陽ニ對スル部分ニ依テ、其ノ光線ヲ受クルノ面積ニ、大小廣狹ヲ生ズルコトヲ、繪畫又ハ燭光ヲ以テ、地球儀ヲ照シテ説明スベシ、此クシテ四季ノ別、晝夜ノ長短ヲ了解スルニ於テハ、春季三月二十一日ヨリ夏季六月二十三日ヨリ、夏半年トシ、秋季九月二十一日ヨリ冬季三月二十一日ヨリ、冬半年トスルコトヲ、黑板上ニ書シテ之レヲ說キ示スベシ。

(十三) 氣候 先ヅ生徒所在地ノ氣候ニ就テ問答シ、然後空氣ガ太陽ヨリ受クル溫度、及ビ風、雨等ニ關スル天氣ノ現象ヲ總テ氣候ト稱スルコトヨリ、地球上緯度ノ差異ト、土地ノ高低、海ノ遠近、風位、山脈ノ方向、海流ノ種類等ハ、皆氣候ニ影響スルモノナルコトヲ說キ、猶地圖ニ就テ、隨所其ノ氣候ノ異ナルハ、此ノ如ク緯度ヲ異ニシ、且何地ハ山脈何レニ亘リ、或ハ何レニ海ヲ受ケ、海流何レニ向テ海岸ヲ流ル、故ニ、其ノ氣候寒冷、又ハ溫暖ナリトノ説明ヲ與フベシ。

次ニ三帶間ニ生産スル動植物ノ寫眞、若クハ繪畫ヲ示シ、凡テ動植物ノ繁殖ハ、氣候ト大關係アルコトヲ說キ、各帶間ニ生産スル動植物ノ種類ニ、此ノ如ク差異アルコトヲ指示シ、其ノ觀察ヲナサシメ、植物ハ熱氣ト濕氣トヲ要スルモノナレバ、熱帶ハ其ノ種類甚多ク、且繁茂シ、動物モ亦巨大ニシテ、猛ク、小虫ハ頗毒多シ、溫帶ハ氣候溫和ニシテ有用ナル動植物ノ多ク産スルコト、寒帶ハ寒氣酷烈ナルヲ以テ、植物ハ僅ニ灌木類、蘚苔ヲ生ズルノミ、動物モ亦馴鹿、白熊ノ如キ、寒ニ堪ユルモノ、ミナルコトヲ覺知セシムベシ。

(十四) 人種及ビ人類ノ狀態 先ヅ地圖ヲ示シ、三帶ノ區別ト、各帶氣候ノ異ナルコトヲ問答シテ後、人類ハ各帶何レニモ住ムコトヲ得ベキモ、氣候ニ關係スルモノナレバ、其ノ生活ニ最適當ナルトコロヲ撰ブ、而シテ溫帶ハ我が日本ノ如ク、生活適當ナルコトヲ說キ、溫帶ニ住スル人民ノ多キコトヨリ、世界ノ人類ヲ骨格上ヨリ五種ニ分ツコト、及ビ其ノ徵候ヲ説明シ、各人種ノ繪畫、又ハ寫眞ヲ示シテ、一々其ノ相異ナル徵候ヲ觀察セシメ、且地圖ニ就テ、各人種居住ノ區劃ノ大概ヲ教ユ、次ニ又人類ヲ開化ノ度ニ從テ、四階級野蠻、半開、文明、分ツコトヲ說キ、開化ノ

度ト氣候、及ビ地勢ニ依テ、人民ノ生業同シカラザルモ、大抵農、工、商、及ビ漁獵、航海、伐木、礦業等ニ從事スルモノナルコトヲ教ニ、最後ニ國體ノ種類、及ビ宗教ノ種類ニ就テ其ノ大要ヲ談話スベシ。

外國地理教授法

外國ノ地理ヲ教授スルモ、其ノ主意ニ於テハ敢テ日本地理ト異ナルトコロナシ、唯其ノ境域ノ廣大ナルト、萬般ノ事情多少異ナルトコロアルトニ依テ、或ハ生徒ノ想像ニ入り易カラザルモノアラン、故ニ必比較ヲ我ガ日本ニ取り、親ク知ル所ノモノヨリ類推セシメ、常ニ日本國ノ觀念ト離レズシテ、或ハ類似ノ聯合、或ハ反對ノ聯合ニ依テ、其ノ大要ヲ確然記任セシムベシ、而シテ其ノ方法ニ於ケルモ決シテ急劇ナル變更ヲナサズ、嘗テ指示セシモノト、大体ハ同様ノ順序方法ヲ追ヒ、國土ノ情況異ナルニ從テ、唯其ノ細目ヲ多少變更スルニ止ムベシ、是ヲ以テ各國殊別ニ教授法ヲ掲ケズ、一二國ヲ例トシテ大体ノ方法ヲ示シ、他ハ各國ノ次序ヲ追フテ、其ノ國名、及ビ教授スベキ事項ノ順序ノ大要ヲ記シ、以テ外國地理ノ教授法ヲ終ラントス、是レ

各國其ノ教授法ヲ異ニスルニアラザレバナリ、然レテモ我ガ國ニ最近接シテ其ノ關係ノ大ナル國土ヲ密ニシ、關係ノ疎ナルニ隨テ大略ニ止ムベシ。

亞細亞諸國

亞細亞ハ我ガ日本國所在ノ大洲ナレバ、先ヅ亞細亞洲ノ位置、形勢ヨリ始メ、地圖ニ就テ大洲、及ビ大洋ノ名稱ヲ問答シ、亞細亞洲ノ地球上ニ於ケル位置、及ビ地勢ヲ教ニ、我日本國ハ大陸ノ何レニ位スルヤヲ視察セシメ、我國ト他邦トノ關係如何ヲ問ヒ、然後山系ノ方向ヲ指示シテ、氣候ノ如何、及ビ土地ノ肥瘠、產物ノ多少等ヲ談話シ、次ニ其ノ民種、風俗ヲ繪畫、又ハ寫真通常市塵ニ賣買スル寫真ハ鏡ニ不傾ナレバ特ニ大ニ寫スカ又ハ放大ニ就テ視察セシメ、且其ノ居住區域ヲ指示シ、以テ亞細亞全体ノ觀念ヲ附與スベシ。次ニ地圖ニ就テ支那全國ノ位置、及ビ其ノ境域ヲ指示シ、支那國ハ支那本部、支那鞏、及ビ西藏ノ三部ヨリ成リテ、其ノ國土ノ廣大ナル我ガ日本國ノ幾倍十餘倍アルコトヲ圖ニ就テ比較セシメ、然後山脈ノ方向ヲ視察セシメ、地圖上ノ經緯線ヲ追フテ、之レヲ我ガ國ノ經緯線ト比較シテ、其ノ緯度ノ如何ヲ推知セシメ、山脈ノ方向ト緯度ノ如何トニ依テ、氣候ニ差異アルコトヲ問答シ、我ガ國南北端ノ土地ノ氣候ヨリ

推シテ支那全國ノ氣候ヲ想像セシム、是レヨリ著大ナル河流ノ方向ト其ノ名稱ト
 ナ教エ、支那本部ノ都邑及ビ貿易ノ要所ヲ指名シ、我が國トノ航路及ビ貿易ノ大要
 ナ談話シ、終ニ人民ノ風俗、習慣ニ移リ、適當ノ繪畫ヲ示シテ其ノ狀態ヲ觀察セシメ、
 民俗勤儉ニシテ能農、工、商ノ業ヲ營ム、性狡猾ニシテ惡ムベキノ俗アルコトヨリ、
 男子ハ總テ辮髮ニシテ、女子ハ足ヲ緊縮スルヲ貴ブコト、及ビ衣服ノ有様ヲ教エ、最
 後ニ奇跡ト稱スル長大ナル運河及ビ長城ノコトヨリ、簡單ナル史談ニ移リ、國体并
 ニ古來國名ノ屢次變リシコト、及ビ現時ノ清國ハ其ノ祖先何レヨリ來リシコトヲ
 地圖ニ就テ説明シ、猶種々ノ問答ニ依テ練習スベシ。
 既支那國ノ地理ヲ終ラバ、朝鮮國ニ移リ、其ノ位置及ビ地勢、境域ヨリ或ガ國ニ對ス
 ル方位、并ニ其ノ國ノ廣狹等ヲ、地圖ニ就テ比較對照シ之レヲ觀察セシメ、支那國ト
 同様ノ方法ニ依テ、氣候、産業等ヨリ都邑、港津ノ位置、重ナル物産、及ビ貿易ノ大要ヲ
 教エ、風俗、人情ノ如何ヲ説明シ、最後ニ我が國、三韓ヲ征伐シタル史談ヲ以テ、古來我
 ガ國トノ關係ヲ覺知セシムベシ。
 次ニ西比利ニ移リ、其ノ國土ノ大陸ノ北ニ偏シ、我が國北海道ノ北隣ヨリ、西韃靼、及

ビこゝかす地方ヲ併セテ、魯西亞領ナルコトヲ、地圖ニ就テ説明シ、且地圖上ノ緯線
 ナ數ヘシメテ、氣候ノ寒烈ナルコトヲ想像セシメ、生活ニ適セザル土地ナルヲ以テ
 居民少ク、隨テ産業少ク、交通亦不便ナルコトヨリ、著明ナル都邑ノ位置、名稱ヲ教エ、
 都府ニ住スル魯西亞人ノ外、皆蠻民タルコトヲ説キ、大体ニ就テ地理ノ觀念ヲ與フ
 ベシ。
 次ニ後印度ノ位置、及ビ其ノ境域ヲ示シ、山岳ノ狀態ヨリ、氣候、及ビ原野ノ肥沃ナル
 コトヲ説テ、之レヲ我が國內ノ地ニ比シテ想像セシメ、然後安南、暹羅、びるま等ノ境
 域ヲ指示シ、現時其ノ管轄セル國名ヲ教エ、河川及ビ都邑ノ名稱ヨリ物産、及ビ貿易
 ノ大要ニ移リ、近傍諸島及ビ土人ノ風俗ヲ談話シ、以テ此ノ國土ノ地理ヲ終ルベシ。
 次ニ後印度ヨリ地圖上其ノ境域ヲ追フテ印度ニ移リ、既學習セシ諸國ト關係ノ位
 置ヲ問答シ、緯線ナ數ヘシメテ其ノ地球上ニ於ケル位置ヲ確メ、先ヅ大山系ノ位置
 方向ヲ問ヒ、其ノ面スル大洋ノ名稱ヲ舉ゲシメ、漸次誘導シテ其ノ氣候ヲ推知セシ
 ム、然後河流ノ方向ヨリ土地傾斜ノ狀態ヲ教エ、平野多クシテ地味肥沃ナルコトヨ
 リ、熱氣強ク且雨濕多キヲ以テ、植物ヨク成長シ又巨大ノ動物多キコトヲ、繪畫ヲ示

シテ覺知セシメ、然後產物ノ重ナルモノヲ舉ゲテ之レヲ記憶セシメ、印度ハ古昔天竺ト稱セシ地ナルコトヨリ、錫蘭島ハ佛教ノ始祖釋迦牟尼ノ教ヲ開キシ所ナルコトヲ説キ、今ハ英國ノ領地トナリテ、英國人多ク都會ニ住スルコトヨリ、著名ナル都邑ノ位置名稱ヲ指示シ、談話ヲ交ヘテ、此ノ地ヲ稱シテ世界ノ寶庫ト云フ所以ヲ説明スベシ。

是ヨリ西部諸國ニ移リ、地圖ニ就テいらん高原ヲ中心トシ、先ヅ東部ノ二國にあふたにすたん、べんちヨリ始メテ、土人數多ノ部落ニ分レ、各酋長之レヲ支配シ、皆遊牧ノ民ナルコトヲ説キ、又西部ニべるしや王國アリテ古ハ盛大ナリシコト、及ビ農業ヲ勉ムル人民多キコト、并ニ其ノ首府ノ位置ヲ説キ、圖ニ就テ其ノ境域ヲ指示スベシ、次ニ亞刺比亞、及ビ亞細亞土耳其ノ境域、都邑、土民ノ状態ヲ談話スベシ、總テ一國又ハ一方ヲ終ルゴトニ、繪畫又ハ地圖ニ就テ種々ノ問ヲ發シ、學習セシ事項ヲ練習セシムベシ。

歐羅巴諸國 歐羅巴ハ我が國トノ交際國多ク、且我が國現時ノ文學、技藝、大抵彼ノ國ヨリ輸入シ來リシモノナルノミナラズ、我が國トノ貿易益、盛大ナラントス

ルヲ以テ、特ニ彼ノ國ノ地理ヲ知了スルノ必要大ナリトス、故ニ兒童ヲ教ウルニハ、決シテ密ナルヲ要セザルモ、其ノ粹ヲ拔テ將來我が國民トシテ商、工、其ノ他産業上ニ有用ナル地理上ノ知識ヲ與フルコトニ注意スベシ、故ニ先ヅ歐羅巴ノ地球上ニ於ケル位置ヲ地圖ニ就テ指示シ、猶之レヲ地球儀ニ移シテ其ノ位置ヲ確メ、我が國ヨリノ方位等ヲ十分ニ覺知セシメ、然後地圖ニ於テ北、西南、三境ノ海名ヲ問答シ、知デレバ海岸線ノ出入ヲ觀察セシメ、又山系ノ方向ヨリ水脈ノ方向ヲ追ヒ、山地、平原ノ大概ヲ指示シテ、各部氣候ノ如何ヲ教エ、產物ノ最著シキモノヲ舉ゲ、製造、工業ノ盛ナルコトヨリ、人民ノ状態、開化ノ度、及ビ文學、技藝ノ盛大ナルコト等ヲ繪畫ニ就テ談話シ、其ノ實狀ヲ觀察セシメ、以テ生徒ノ想像力ニ訴ヘシムベシ、即其ノ順序ハ位置、及ビ地勢、氣候、及ビ產物、人民ノ状態ト、各其ノ部ヲ分チ、前後ノ聯絡ヲ破ラズシテ大要ノ觀念ヲ與フベシ。

次ニ地圖上英國ノ位置、及ビ境域ヲ指示シ、ぐれいとぶりつてんとわいるらんとトノ二島ヲ併セタル國土タルヲ説キ、之レヲ英吉利ノ本國トス、其ノ大サハ我が國ヨリ廣大ナルニアラザルモ、世界ノ富國ト稱セラレ、ハ、工業、商業ノ盛ニシテ製造物

多キコト、及び其ノ重ナルモノヲ舉ゲ且工業ニ有用ナル鐵、石炭ヲ多ク産スルコトヲ教ニ、次ニ都會及び貿易ノ要所ヲ指名シテ、其ノ狀況ノ大要ヲ談話シ、然後ぐりいんるつち天文臺ノ世界地理上經線ノ起點タルコトヲ説キ、後書ニ就テ練習スベシ。

次ニ佛蘭西國ノ地理ニ移リ、地圖上ニ就テ歐羅巴大陸ノ西部ヲ占ムル大國ニシテ國土ノ廣サハ我が國ヨリ大ナルコトヲ比較セシメ、其ノ境界ヲ指示シ、又佛蘭西山脈ノ方向ヲ示シ、氣候ノ大体ヨリ人民産業ノ重ナルモノヲ教ニ、工業品ノ種類、且精巧ヲ説キ、然後首府及び貿易繁盛ノ都邑ヲ指名シ、彼レヨリ我が國ニ輸入スル物品ノ重ナルモノ、及び我が國ヨリ彼レニ輸出スル品物ヲ教ニ、國體ノ我が國ニ異ナルコト、及び人民ノ性質、習慣ヨリ歐洲華美壯麗ノ中心ナルコトヲ説明シ、其ノ大要ヲ理解セシムベシ。

次ニ伊太利國ニ轉シテ、其ノ境域ヲ指示シ、以太利半島ノ全部、及びエシリヤ、ざるヒニヤ諸島ヲ併ハスル王國タルコトヨリ地勢ノ大体ヲ説キ、氣候ノ温和ニシテ此ノ大陸中ノ花園ト稱スルコト、及び産物ノ著名ナルモノヲ舉ゲ、又圖畫彫刻ニ巧ニシテ、音樂ニモ長ズルコトヲ談話シ、世界ノ美術國タルヲ教ニ、都府港津ノ貿易繁盛ノ

狀ヨリ、古來ノ史談ヲ交ヘ、羅馬帝國ノ繁盛ナリシコト、及び宗教ノ盛大ナリシ所以等ヲ、圖ニテ説キ示シ、以テ此ノ國ヲ終ルベシ。

次ニ又地圖上埃地利、匈牙利ノ位置ヲ指示シ、此ノ國ハ大陸ノ中央ニアル一大帝國ニシテ、元ト種々ノ小國ヲ併セタルモノナルコト、及び埃地利皇帝自匈牙利ノ王位ヲ踐ミ、全國ヲ統治スルコトヲ説キ、然後此ノ國ノ山多キ國土タルヲ觀察セシメ、且其ノ境域ヲ教ニ、而シテ山多キヲ以テ鐵屬ニ富ムコト、及び匈牙利平野ノ開ケテ農業ノ盛ナルコト、并ニ其ノ産物ノ著名ナルモノヲ教ニ、首府及び著名ノ都市ヲ指示シ、人民ノ風俗、開化ノ有様、國內隨所同シカラザルコト、埃地利人ノ文學、藝術ハ他ノ開化國ニ劣ラザルコトヲ談話シ、以テ其ノ大体ニ就テ知了セシムベシ。

獨逸國ニ移テハ、先ヅ其ノ境界ヲ追フテ佛蘭西埃地利ニ境ヲ接シ、大陸ノ何レニ位スル大國タルヲ地圖上ニ於テ觀察セシメ、且緯度ノ如何、及び獨逸平原ばいえるん高原等ヲ指示シ、此ノ國ノ氣候ハ殊ニ爽快ニシテ人ノ健康ニ適スルコト、及び北部ノ平原ハ冬寒氣強ク、又沙磧ノ地アルモ、他ハ地味ノ肥沃ナルヲ以テ産物多キコトヲ説キ、其ノ重ナルモノヲ舉ゲ、又森林多ク、良材ニ富ムコト、及び山地ヨリ出ヅル鐵

屬ヲ列舉シ、然後此ノ國ハ普魯西さくせん、ばいえるんノ三王國、其ノ他ノ小國ヲ聯合シテ一帝國ヲ爲シ、普王兼テ帝位ヲ踐ムコトヨリ、普魯西ノ境域最大ニシテ強勢ナルコトヲ談話シ、獨逸人民ハ歐洲中最勤勉ニシテ學術ニ長ズルコト、及ビ製造業ハ英佛ニ讓ラズ、美術ハ伊太利ニ彷彿タルコトヨリ、外國貿易ノ大要ヲ説明シ、地圖ヲ以テ貿易ノ要所及ビ首府ノ有様等ヲ指示シ、併セテ我が國ヨリノ航路ヲ説キ、後書ニ就テ練習スベシ。

次ニ魯西亞ニ移リ、圖ヲ以テ此ノ國ノ大ナル歐洲大陸ノ大半ヲ占ムルノミナラズ、魯領亞細亞ヲ合スレバ、東大陸ノ殆ソド半ヲ領スルコトヲ知ラシメ、此ク土地廣大ナルモ人口少ク、魯西亞本國ト雖、荒原森林ノ間ニ村落ノ遠ク散布スルノ状態ヲ繪畫又ハ寫眞等ニテ示シ、然後此ノ國農工ノ業日ニ益、開ケ進ムコトヨリ、產物ノ重ナルモノヲ掲ゲ、又人民ノ有様、及ビ首府、都市ノ位置ヲ指示シ、其ノ繁盛ノ狀ヲ説キ、もすこらハ舊都ニシテ今ハ第一ノ工業地トナリ、亞細亞貿易ノ中心タルコトヲ説明スベシ。

次ニ瑞典、那威、丁抹、和蘭、白耳義、瑞西、西班牙、葡萄牙、土耳其、希臘等ノ諸國ニ移リ、其ノ

位置及ビ境域ノ大小等ヨリ、產物、首府及ビ貿易ノ大要ヲ地圖上ニテ教エ、想像旅行ヲ爲サシメ、以テ其ノ大体ノ觀念ヲ與フベシ。

各國總テ先ヅ地圖上ニ於テ想像旅行ヲ爲サシメ、能其ノ位置形勢ヲ識領セシメ、記憶上ニテ稍々其ノ地圖ノ大要ヲ描クコトヲ得タル後、教科書ニ就テ之レヲ讀マシメ、復習的ノ用ニ供セシムベシ、決シテ始メヨリ書ヲ讀マシムルガ如キ文字的ノ記憶ヲ避クベシ。

亞弗利加 亞弗利加ハ國ノ盛ナルモノ無ク、野蠻人其ノ大半ヲ占ムルヲ以テ、全体ニ就キ大要ノ地理ヲ教ウルヲ以テ足レリトス、先ヅ地圖ニ就テ亞弗利加ノ位置ヲ指示シ、其ノ形狀ノ大ナル半島形ヲ爲スコトヲ知ラシメ、四境ノ海名ヲ問答シ、細キ地頸ヲ以テ亞細亞ニ連ナルモ、今ハ運河ヲ掘リ、地中海ト紅海トヲ連結セルヲ以テ、亞弗利加ハ人工ニ依テ一個ノ大島トナリタルコトヲ説キ、運河無キ以前ハ、亞弗利加ノ南端ヲ廻リテ、東西洋ノ交通ヲナセシヲ以テ困難ナリシモ、佛人ノ企ニ依テ遂ニ運河ヲ開キ、東西洋ノ交通ヲ便セシコトヲ談話シ、是レヨリ地勢ニ移リ、内地ハ一樣ナル中高原ニシテ、其ノ傍邊ニ山嶺アリ、此山嶺ヨリ海岸ニ至ル間ハ、一帯ノ

低地ナルコトヲ圖ニ就テ覺知セシム、次ニ山岳ノ位置ト其ノ著明ナル山嶺ヲ指示シ、然後内地ノ高原ヲ三部ニ分チ、ぐわだふい岬ヨリぎにや灣ニ至ル一線ヲ畫シ、其ノ南部三角形ノ地方ニ就テ、三大河ノ流注スル方向ヲ示シ、其ノ水源ニ三大湖アルコトヲ覺知セシメテ、其ノ地形ノ大要ヲ教エ、此ノ高原ヨリ北部沙漠ニ至ルマデ中央高原トシ、丘陵所々ニ起伏シテ地面一様ナラザルコトヲ說キ、其ノ西部ニ大河アリテこんぐ嶺ヨリ發スルヲ指示シ、總テ此ノ高原ノ地方ヲすうだんと稱スルコトヲ說キ、又紅海ノ岸ヨリ大西洋岸ニ至ル、北部ノ地ハ廣漠ナル沙漠ニシテ之レサはらト稱ス、沙漠トハ汝等親ク見ル所ノ原野ノ猶廣キモノニシテ、千餘里ニ涉テ草木無ク、恰モ海邊ノ如ク沙ノ全体ニ積敷セル地ニシテ、即沙ノ海ナリトノ説明ヲ與ヘ、其ノ狀態ヲ想像セシム、猶沙漠中晝夜ノ氣候反對ニ酷烈ナルコト、及ビ旅行ノ困難等ヲ談話スベシ、次ニ全体ノ氣候ニ移リ、中央部ハ酷熱多雨ニシテ瘴熱ノ氣深ク南北ノ兩端地ハ、甚シク乾燥シテ氣候概テ不良ナルコト、及ビ動植物ノ狀態等ヲ說キ、適當ノ繪畫ヲ示シテ之レヲ覺知セシム、然後民種ノ如何ヲ說キ、ないる河ノ下流ナル埃及ハ、上古歐羅巴ニ先ダヤテ開ケタル國ニシテ、今其ノ舊跡ヲ存スルコト、及ビ

其ノ著明ノ古跡ヲ說キ、是レヨリ地中海ニ濱スル數國ニ就テ其ノ大要ヲ説明シ、又南端外國ノ植民地ノコトニ及ビ、最後ニ土人ノ風習ヨリ、賣奴ノコトヲ談話シテ、亞弗利加全体ノ大要ヲ知ラシムベシ。

北亞米利加諸國 先ツ西半球ノ地圖ヲ示シ、我が日本ハ東半球ニアリテ、其ノ反對面ニアル大陸ヲ西半球ノ大陸ト稱スルコトヲ教エ、地球儀ニ就テ北亞米利加ト日本トノ位置ノ反對面ニアルコトヲ示シ、英國ぐりいんつち天文臺ノ子午線ヨリ次第ニ經線ヲ數ヘ、彼レハ西ニ幾度、我ハ東ニ幾度ナルコトヲ教エ、猶其ノ位置ヲ確メ、然後地圖ニ就テ北亞米利加ノ四境ヲ繞ル海名ヲ教エ、其ノ大陸ノ略、三角形ヲナセルコトヲ知ラシメ、海岸線ノ著シク陸地ニ入込タル所ほゞこんヲ指名シ、墨西哥群島及ビ北海上ノ諸島ノ位置名稱ヲ教エ、次ニろつさい山系ノ方向ヲ示シ、又あれがに山脈ノ位置ヲ指示シ、自地面ノ三部ニ分カル、コトヲ說キ、ろつさい山系ニ沿フタル西部高地ト、あれがに山脈地方ノ東部高地ト、南高地ノ中間ニアル大平原トヲ圖ニ就テ觀察セシメ、其ノ境域ヲ示シテ大体ノ地形ヲ教エ、然後著明ナル大河ノ方向、及ビ大湖ノ位置ヲ示シ、又風ノ方向ニ依テ、中央部平原ハ俄然寒熱ノ

氣候ニ變アルコト、及び東西海岸ノ地ハ同緯度ナルモ、溫度著シク懸隔スルコトヲ説明シ、是レヨリ土地ノ肥瘠ニ就テ其ノ大要ヲ語り、植物ノ種類多キモ、動物ハ其ノ種類少ナキコト、及び其ノ重ナルモノヲ掲ゲ、且鐵屬ノ著名ナルモノヲ教ウベシ、次ニ民種ノ如何ヨリ往古白人種ノ來リシ大要ヲ談話スベシ。

北亞米利加ノ大体ヲ教授シ終ラバ、次ニ合衆國ニ及ボシ、其ノ領地ノ境域ヲ圖ニ就テ指示シ、此ノ大陸發見ヨリ百餘年ノ後、英國人東海岸ノ地ニ植民ヲ始メ、後漸ク人民繁殖シテ、遂ニ英國ノ管理ヲ脱シテ、獨立ノ共和國ヲ建ツ、是レ合衆國ナルコトヲ談話シ、此ノ國ハ我日本國ト大洋ヲ隔テ、西隣ナルコトヲ示シ、此ノ國ノ人民ハ英人ノ子孫ニシテ、風俗、言語、概シ英人ニ同シキモ、性溫厚ニシテ信義ヲ守ルノ風アルヲ以テ、我が國ト交際極メテ親密ナルコトヲ説キ、人民ノ知識ニ富ミ、便利ノ機械ヲ造ルヲ以テ、農、工業ノ盛ナルコトヨリ其ノ狀態ヲ繪畫ニ就テ示シ、農産物、及び工藝品ノ主要ナルモノヲ舉ゲ、商業ノ盛ナルコトヲ説キ、我が國トノ貿易輸出入品ヲ説明シ、我が國トノ航路、及び著名ノ都邑、港津等ノ位置ヲ指名シ、後國體ノコトニ就テ談話スベシ。

次ニ北部諸國ノ位置境域ヲ示シ、合衆國ノ北ナル廣大ノ地方ヲ英領亞米利加ト稱シ、英國ノ屬地ニシテ面積大ナルモ、氣候寒烈ニシテ居民少ク、隨テ産物少キコト、及び南部ノかなだ地方ハ氣候溫和ナルコトヨリ、其ノ地ノ生業、及び物産等ヲ教エ、西部ノあらすかハ合衆國ニ屬シ、綠蘭ハ丁抹ニ屬スルコトヲ教ウベシ。

次ニ南部諸國ニ移リ、墨西哥國ノ位置境域ヨリ其ノ氣候ヲ教エ、民俗ノ狀態、物産ノ重ナルモノ、及び首府、港灣ノ位置ヲ指示シ、此ノ國ハ五個ノ共和國ヨリナルコトヲ説明シ、西印度諸島ニ移テ、其ノ地勢、及び産物等ヲ教ウベシ。

南亞米利加 南亞米利加ハ亞弗利加ニ等シク、全体ニ就テ其ノ大要ヲ識知セシムベシ、即地圖上ニ於テ位置、及び地形ノ概要ヲ説明シ、あんです山系ノ位置ト、ふらじる地方ノ山脈ノ位置ヲ示シ、地理上三大區別アリテ、山地、ふらじる臺地、及び大低原ノ三部ニ別ル、コトヲ説キ、あんです山系中火山多キコトヨリ、大低原ハ之レヲ流ル、三大河ニヨリテ其ノ名ヲ異ニスルコト、即をりのこのらのす、あまぞんノしるわす、らふらだノばんばす、是レナルコトヲ説キ、地圖ニテ之レヲ探索セシメ、然後らのすハ熱帶ニ在ルヲ以テ、一年二季ニ別レ、十月ヨリ乾季ニ入り、野草枯レテ沙

漠トナリ、四月濕季トナレバ降雨間斷無ク、忽青々タル好牧場トナルコト、其ノ他玄
 るわすハ熱濕ノ爲森林ニ富ミ奇獸多キコト、及びばんばすノ雜草繁茂シ牛馬ノ遊
 牧ニ適スルコトヲ談話シ、是レヨリ全体ノ氣候ニ移リ、此ノ大陸ノ半ハ熱帶ニアル
 モ、大西洋ヨリ吹キ來ル冷風ト、降雨多キヲ以テ、酷熱ナラザルコト、南部ハ氣候溫和
 ニシテ植物ニ適シ、又溫帶地方ノ人ノ生活ニ適スルコトヲ教エ、重ナル產物、其ノ他
 動物植物ノ種類ノ概要ヲ繪畫ニ依テ知了セシメ、最後ニ諸國ノ位置ト、其ノ國名及
 ビ人民ノ狀態ニ就テ談話シ、大要ヲ知了セルニ於テハ書ニ就テ之レヲ讀マシムベ
 シ。

大洋洲 大洋洲ハ印度洋ノ東邊ヨリ太平洋上ニ散布スル諸島ノ總稱ナレバ、
 素ヨリ全体ニ就テ其ノ大要ヲ教ウルコト難シ、故ニ先ヅ何レヨリ何レニ至ル間ニ
 點々散布スル諸島ヲ、總テ西亞尼亞ト稱スルコトヲ地圖ニテ覺知セシメ、全体ヲ
 三部ニ區別シ、馬來西亞、濠斯太拉利亞、波里尼西亞トナシ、各部諸島ノ位置、及ビ其ノ
 大小等、我が日本國ニ比較シテ其ノ概要ヲ知ラシメ、緯度ニ就テ各島ノ氣候ヲ推知
 セシメ、且繁茂セル草木ノ種類、及ビ重ナル動物ヲ繪畫等ニテ示シ、居住土人ノ風俗

ノ野鄙ナルト、性質兇暴殘忍ナルコトヲ例ヲ舉ゲテ談話シ、外國ニ所屬セルモノハ
 其ノ所轄ノ國名ヲ教エ、首都又ハ港津ノ稍繁盛ナルモノヲ指示シテ、船艦ノ航路等
 ナ示シ、以テ大要ノ地理ヲ了知セシムベシ、濠斯太拉利亞ノ如キハ多少内地ノ狀態
 ナ詳ニシ、其ノ他南洋貿易ニ密ナル關係アル島嶼ハ稍精ク授クベシ。

總テ各國ノ面積、人口等必要ナルモノニシテ、數ヲ以テ表ハスモノ、又ハ動植物、及ビ
 重ナル產物ノ如キハ、豫略表ヲ製セシメ、之レニ記入シテ、平常教師ノ口授セルコト
 、對照セシムルヲ可トス、又各國ノ地理ヲ教授シ終ラバ、其ノ國ノ略圖ヲ描カシム
 ルヲ以テ大ニ益アリトス、故ニ教師ハ豫準備シテ時宜ニ隨テ之レヲ行フベシ。

地理教授ノ用具

地理ヲ教授スルニハ、生徒ノ眼目ヲ使用セシメ、觀察力ニ訴ヘシメ、以テ確實ナル想
 像ヲ爲サシムベキハ、論ヲ竣タザルコトニシテ、教科書ハ唯地圖等ヨリ直ニ得難キ
 モノヲ知ルノ用ニ供スルト、既地圖上ニ就テ得タル事項ヲ復習ズルニ用フベキモ
 ノナレバ、地理教授ニ地圖其ノ他ノ用具ノ必要ナルヲ知ルベシ、故ニ左ニ地理教授

ノ用具ヲ掲グルヲ以テ、教師タル者常ニ此等ノ用具ニ就テ、其ノ用法ヲ種々工夫シ、又ハ他ニ新奇ノ要具ヲ是レヨリ改良工夫シ得バ、地理教授ノ進歩モ亦一層大ナラシム、用具ノ準備無クシテ地理ヲ教授セントスル者ハ、地理科ヲ讀書科ト同一視スルモノニシテ、此ノ如キ教師ノ今日ニアルベキコトナシト雖、亦或ハ此レニ近キ者全ナシトセズ、故ニ之レヲ左ニ掲グ。

- (一) 尺度并ニ間竿間繩
- (二) 圖引器械
- (三) 磁針盤
- (四) 教室ノ圖
- (五) 學校全圖并ニ家屋平面圖
- (六) 學校近傍圖
- (七) 山岳河湖港灣岬嘴半島及島嶼ヲ表ス圖
- (八) 町村ノ圖
- (九) 郡圖并ニ縱橫線ヲ引キタル黑板

- (十) 府縣管内圖
 - (十一) 日本分割圖
 - (十二) 日本全圖
 - (十三) 半球圖
 - (十四) 五大洲分割圖
 - (十五) 航海圖并ニ地文學上ノ地圖
 - (十六) 地球儀
 - (十七) 起伏地圖并ニ模型圖
 - (十八) 世界各國各地ノ石板畫及ビ寫眞
 - (十九) 寒溫熱三帶間ノ動植物ノ標本又ハ繪畫
 - (二十) 各國人種ノ風俗及ビ生業上ノ狀態ヲ寫シタル繪畫
 - (廿一) 各國重ナル產物ノ標本類
- 右ハ通常必需ノ用具ニシテ、欠クベカラザルモノノミヲ掲グ蓋之レヲ以テ盡クセリト云フニハ非ルナリ。

終

明治廿六年五月五日印刷
同 年五月十二日發行

小學教授術地理科

定價金廿貳錢



著者	是石辰次郎
發行者	金港堂書籍會社 <small>日本橋區本町三丁目拾七番地 金港堂書籍會社社長</small>
代表者	原亮三郎 <small>下谷區龍泉寺町四百拾番地 三協會員</small>
印刷者	大西鍊三郎 <small>總町區有樂町三丁目</small>
發行所	金港堂書籍會社 <small>日本橋區本町三丁目拾七番地</small>
大賣捌	金港堂 <small>大阪市東區南本町四丁目</small>
大賣捌	金港堂 <small>仙臺市國分町五丁目</small>
印刷所	三協會 <small>京橋區弓町二拾四番地</small>

圖書 和圖書 遊



a 1380837897 a

福岡教育大学蔵書

M)